
「親の学習」プログラムによる 家庭教育支援の進め方の調査研究



平成22年3月

埼玉県立総合教育センター

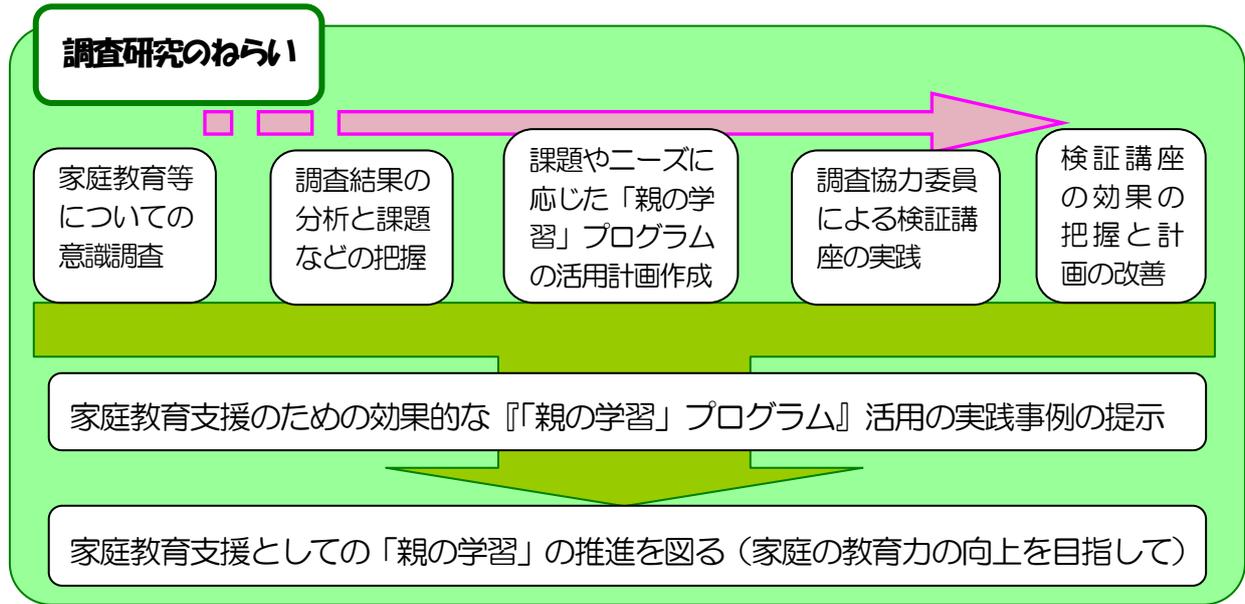
目 次

I	研究主題	-----	P	1
II	研究主題設定の背景	-----	P	1
III	研究のねらい	-----	P	2
IV	研究の基本的な考え方	-----	P	2
V	研究の進め方と経過	-----	P	3
VI	研究の具体的な取組	-----	P	5
1	アンケート調査と結果分析			
	(1) アンケート調査の概要			
	(2) アンケート調査の結果			
	(3) アンケート調査の結果分析			
2	効果的な「親の学習」プログラムの実践方法	-----	P	14
	(1) 実施計画の内容			
	(2) 実施計画の例			
	(3) 実施計画一覧（検証授業・講座）			
3	実践例の提示	-----	P	17
	実践例1 「総合的な学習の時間」	熊谷市立大麻生中学校	-----	P 18
	実践例2 「家庭科」	深谷市立川本中学校	-----	P 21
	実践例3 「特別活動（学級活動）」	熊谷市立大麻生中学校	-----	P 24
	実践例4 「地区懇談会」	所沢市立小手指中学校PTA	---	P 27
	実践例5 「給食試食会」	深谷市立川本中学校PTA	----	P 30
	実践例6 「小・中学校合同家庭教育学級」	深谷市立川本中学校PTA	----	P 33
	実践例7 「家庭教育学級」	越谷市NPO 法人子育てサポーター・チャオ	---	P 36
	実践例8 「赤ちゃんひろばの特別講座」	三郷市立北公民館	-----	P 39
VII	まとめ	-----	P	44

資 料 編

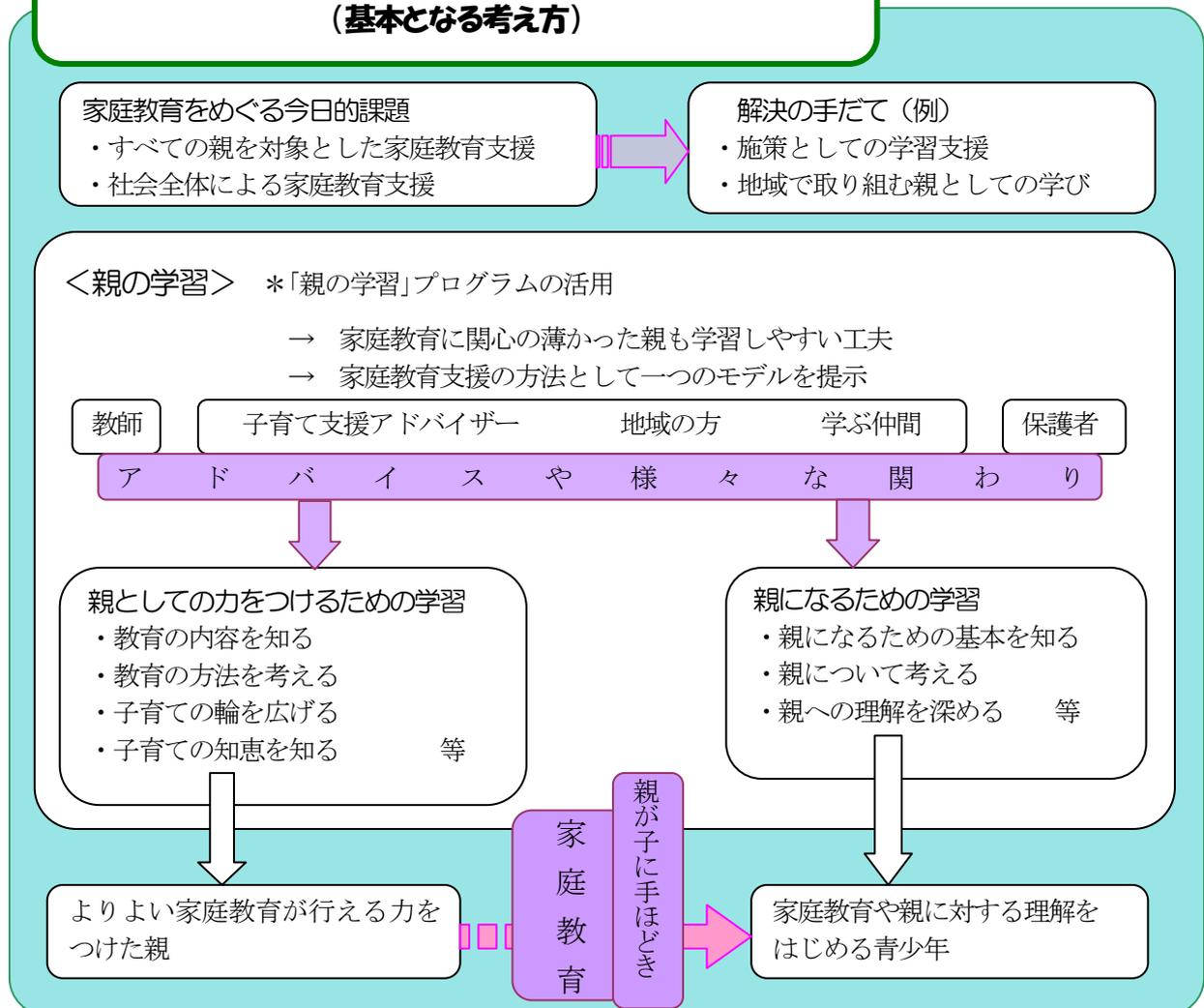
I	アンケート用紙	-----	P	1
II	プログラムに関する資料・ワーク等	-----	P	3
III	中学校学習指導要領（抜粋）	-----	P	16

<「親の学習」プログラムによる家庭教育支援の進め方の調査研究 構想図 >



家庭教育支援における『親の学習』プログラム』活用への期待

(基本となる考え方)



I 研究主題

「親の学習」プログラムによる家庭教育支援の進め方の調査研究

II 研究主題設定の背景

1 家庭教育をめぐる現状と課題から

現在、少子化・核家族化・都市化・情報化・価値観の多様化等の社会現象が進行している。埼玉県では、ここ数年、一般世帯数に占める核家族の割合が65%前後を推移し、この数値は47都道府県中、常に上位にある。こうした社会現象は、社会の様々な部分で好ましくない影響を与えることもある。その一つとして、家庭の養育機能の低下があげられる。家庭教育や子育てに関して、次のような現状が表れている。

- ①地域内での人々の交流が希薄化しており、地域住民同士による子育て支援などができにくい。そのため、家庭（親）が孤立している場合がある。
- ②「相談相手が身近にいない」、「支援者を見つけづらい」ため、子育てに自信が持てず、悩む親がいる。
- ③「親として未成熟であり、精神的にも不安定である」ため、子どもに対して無関心・無責任な親の姿が一部に見られる。その表れとして、放任、暴力、虐待などがある。

このようなことから、社会の変化や新たな課題に対応する家庭教育の必要性がいわれ、家庭教育に対する社会全体での積極的な支援が求められている。

2 国や県の法令や施策との関連から

①教育基本法の改正（平成18年「家庭教育」―第10条―を創設）

（家庭教育）第10条

父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

- 2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

②家庭教育に関する国の主な提言・施策

- ・中央教育審議会答申（平成20年）

新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について）

『保護者と子どもの主体的な“育ち合い”（共育）』『地域社会全体での子育ての“支え合い”（共同）』『多様性の認識の“分かち合い”（共生）』という3つの視点を踏まえた家庭教育支援」

- ・教育振興基本計画（平成20年）

「基本的方向1：社会全体で教育の向上に取り組む〈家庭の教育力の向上を図る〉」

③家庭教育に関する県の主な施策

- ・ゆとりとチャンスの埼玉プラン（平成19年度～平成23年度）
「次世代の力育成戦略『あったか子育て』『子どもを鍛える』」
- ・彩の国教育改革アクションプラン（平成14年度～平成20年度）
「積極的に家庭の支援を行うという視点」
「学校は家庭の教育力を高める支援機能の拠点になるという視点」
「学校を親が学ぶ拠点とするという視点」
- ・「親の学習」プログラム作成（平成19年度）
- ・生きる力と絆の埼玉教育プラン（平成21年度～平成25年度）
『親の学習』を推進する視点」「子育て支援充実の視点」「仕事と家庭の調和の視点」

Ⅲ 研究のねらい

家庭教育に関する意識調査を行い、ニーズや実態に応じた効果的な「親の学習」の進め方について検討し、「親の学習」プログラムの具体的な活用事例を提示することにより、「親の学習」の推進を図る。

Ⅳ 研究の基本的な考え方（家庭教育と「親の学習」）

1 家庭教育の重要性と親の学習

家庭教育とは、親やこれに準ずる人が子どもに対して行う教育をいう。教育の出発点ともいわれ、人格形成の基礎を培い、社会のよき担い手をととして育つためにも大変重要である。

家庭教育を充実したものとするためには、親は教育する内容を知り（知識）、教育の仕方を知り工夫する（知恵）ことが必要であり、子どもは「将来親となる準備をすること」が大切である。

このための方策として「親の学習」を進める必要がある。

2 「親の学習」プログラムを活用する効果

家庭教育支援に「親の学習」プログラムを取り入れるということは

- ・だれでも気軽に参加しやすくなる。
- ・子育て仲間の輪の広がりが期待できる。
- ・家庭教育に関する共通の話題を提供し、学校・家庭・地域が一体となった子育てにつながる。

すべての親を対象とする家庭教育支援の推進

社会全体による家庭教育支援の推進

「親の学習」を推進していくことは、家庭教育への理解を深め、絆と支援の広がり着実な一歩となる。

V 研究の進め方と経過

1 平成20年度（1年目）

- (1) 「家庭教育のあり方」などについての意識を「乳幼児を持つ親」「小・中学生の保護者」「中学生」を対象にアンケート調査を実施し、その結果を分析した。
- (2) アンケート調査を踏まえ、効果的な『「親の学習」プログラム』の実践方法を検討し、実施計画、指導計画を作成した。

2 平成21年度（2年目）

- (1) 「親の学習」を実施していく上での工夫や配慮事項を盛り込み作成した実施計画により、検証授業や検証講座を実施した。
- (2) 「親の学習」体験者を対象にしたアンケート調査を行い、意識の変容などをとらえるとともに、「親の学習」プログラム』を活用した授業や講座の実践例を提示した。

20 年 度	5月	第1回調査研究協力委員会 研究の概要提案・基調講義	
			各自でアンケート調査の内容・対象者について案を作成
	7月	第2回調査研究協力委員会 アンケート調査項目・対象者の検討 アンケート調査実施に向けての手順の確認	 <p>どのような人を対象にしましょうか</p> <p>どのような内容にしましょうか</p>
			アンケート調査 → 回収 → 集計
	11月	第3回調査研究協力委員会 アンケート調査結果の 分析考察とまとめ	 <p>「親」というものに対する考え方は？ 「親」になるということは？</p>
		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>授業展開案の作成</p> <p>この子たちが「親」になるときに望ましい子育て、家庭教育ができる「親」になっていてくれたらいいな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業 ・総合的な学習の時間の授業 ・特別活動（学級活動）の授業 ・年間指導計画の中の位置づけ ・日常の働きかけの工夫 ・生徒と保護者がいっしょになっての取組はできないだろうか ・「親の学習」プログラムを実施するにあたっての様々な連携の工夫 </div> <div style="width: 45%;"> <p>講座展開案の作成</p> <p>「親」が子どもに教えられることは？ できるだけ多くの「親」に参加してもらうためにどのような工夫をしようか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動での活用方法 ・家庭教育学級での講座 ・既存事業への取り入れの工夫 ・参加対象者への広報の工夫 </div> </div>	

VI 研究の具体的な取組

1 アンケート調査と結果分析

(1) アンケート調査の概要

ア 調査の目的

「親の学習」プログラムによる家庭教育支援の進め方の調査研究にあたり、プログラムを導入した授業や事業の展開案を作成するため、学習の対象者等に意識調査を図る。

イ 調査方法

調査研究協力委員の所属する各団体（所属校など）及び、協力委員が働きかけのできる範囲で、アンケート調査を依頼した。

ウ 調査の概要

(ア) 調査期日 平成20年9月から10月

(イ) 調査対象と回答数

アンケート1	乳幼児の保護者	226
アンケート2	中学生（小学生）の保護者	1067
アンケート3	中学生	906

(ウ) アンケート調査票は、資料 P1・P2

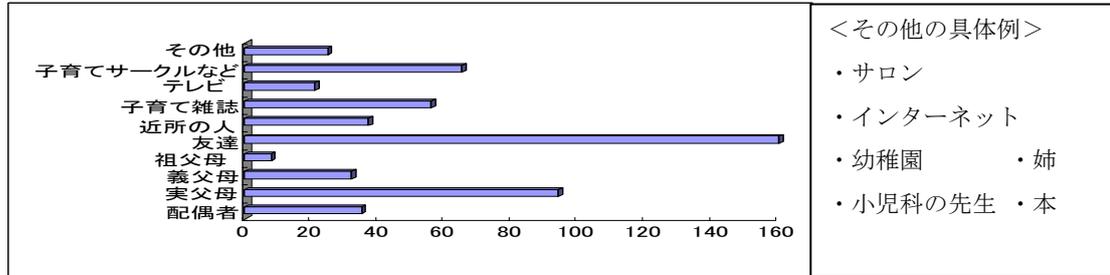
エ 調査の意義

「親のあり方」「子育てに対する意識」等についての意識やその実態を把握することができ、ニーズや実態に応じた「親の学習」を展開することができる。3種類のアンケートにより学習対象者毎のデータを得ることができる。

(2) アンケート調査の結果 (アンケート調査票は資料P 1・2)

アンケート1 (乳幼児を持つ親用)

- 1 家族で協力をして、子育てができていますか? 【はい96% いいえ4%】
- 2 あなたの子育てを支援してくれるところがありますか? 【はい93% いいえ7%】
- 3 自分自身の子育てについて、不安に感じますか? 【はい62% いいえ38%】
- 4 子育てについての情報源は主にどこですか? (複数回答可)



- 5 子育てについての講演・講座などに参加したことがありますか? また、その理由をお書きください。

はい 32%

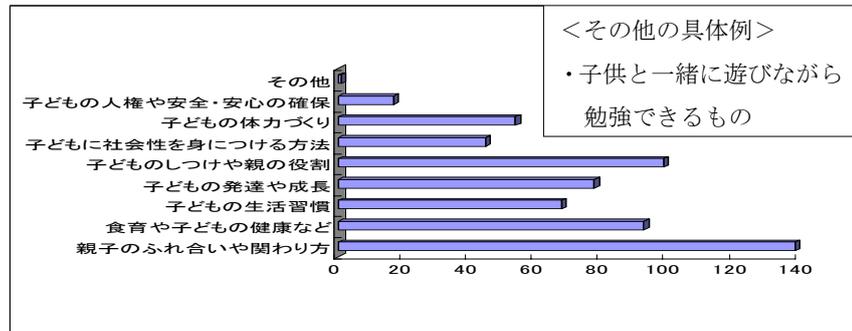
・不安の解消 ・友を求めて ・気分転換 ・情報収集 ・子供同士のふれあい

いいえ 68%

・忙しい ・機会がない ・特に不安がない ・子供を見てくれる人がいない
 ・子連れだと抵抗がある ・開催についての情報が入りにくい

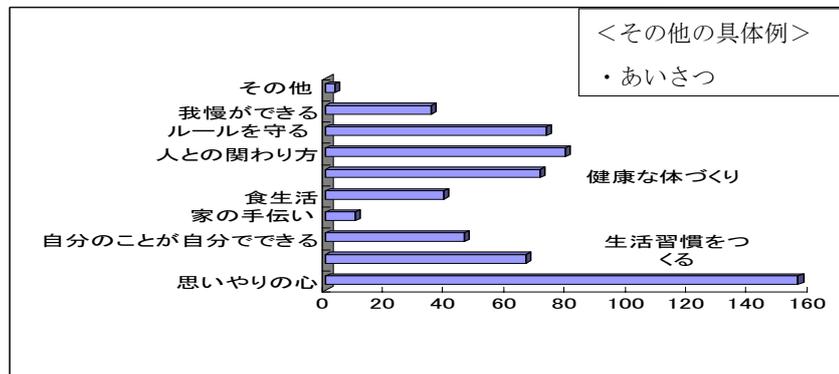
- 6 5で「はい」と答えた人にお聞きします。それはどのようなものですか? (複数回答可) 【市町村56%、公民館29%、企業3%、PTA1%、その他10%】
 ※その他 (保育園、幼稚園、児童館)

- 7 どのような内容の学習会や講演会なら参加してみたいと思いますか? (複数回答可)



- 8 あなたが、家庭教育 (家庭で子供に身につけさせたいこと) で、特に大切にしたいことは何ですか?

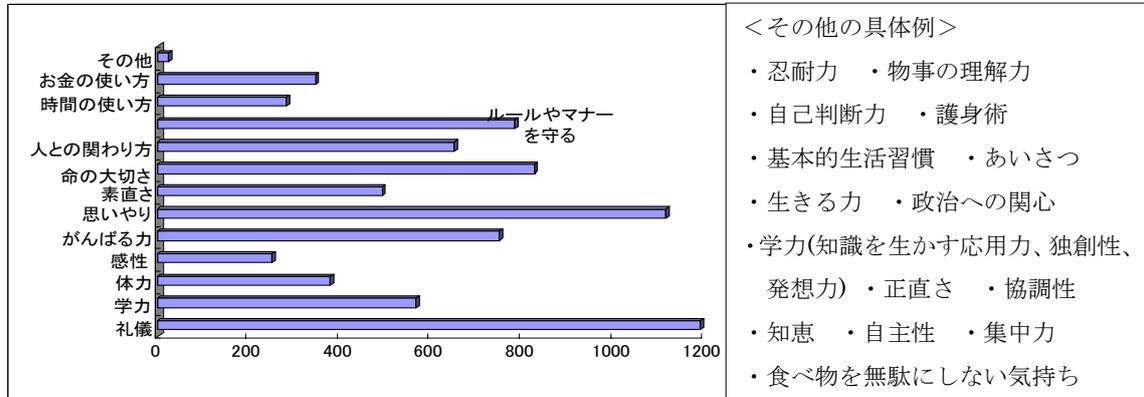
(複数回答可)



アンケート2 (小・中学生保護者用)

1 家庭教育(しつけなど)を意識したことがありますか?【はい97% いいえ3%】

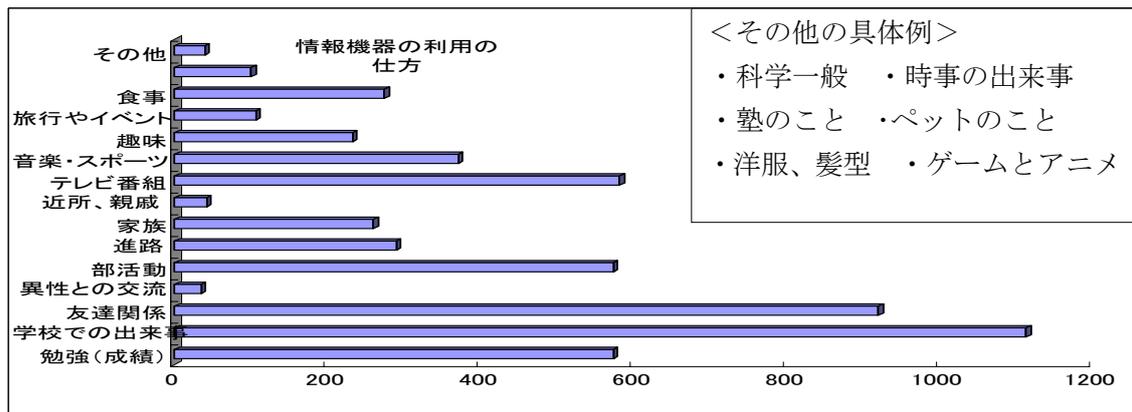
2 お子さんに特に身につけてほしいと思うものはどれですか? (複数回答可)



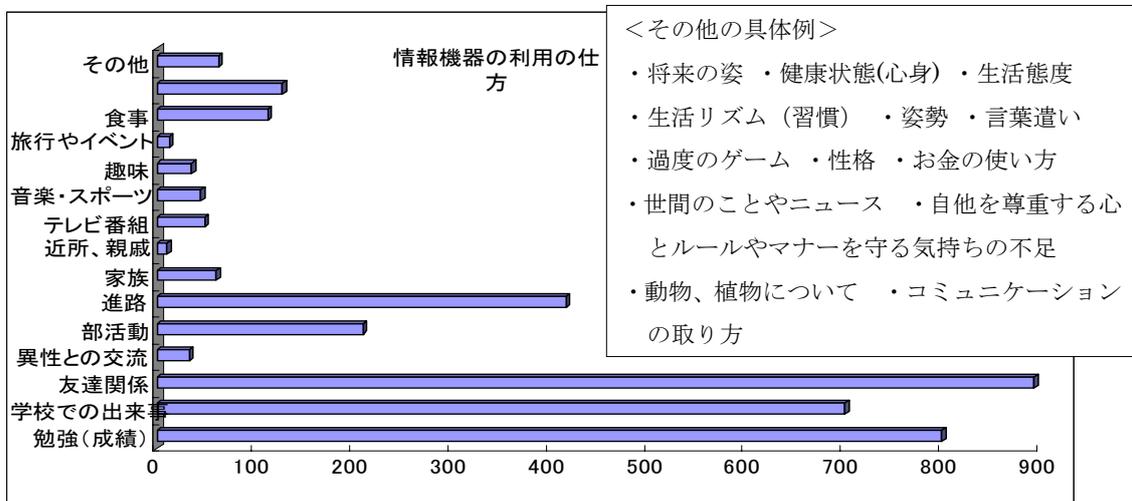
3 お子さんと会話をしますか?

【よくする82% 時々する17% あまりしない1% 全くしない0%】

4 お子さんとの会話でよく話題にすることは何ですか? (複数回答可)



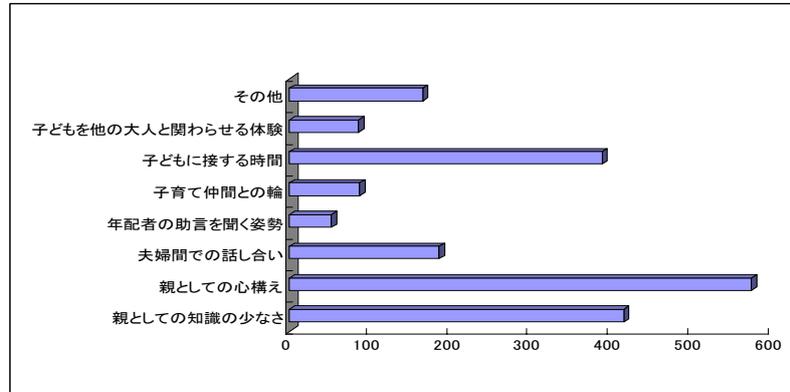
5 お子さんのことで特に気になっていることはなんですか? (複数回答可)



6 これまでの子育てについて反省することがありますか？ 【ある 88% ない 12%】

7 6で「ある」と答えた人にお聞きします。それはどんなことですか？ **強く**思っていることを選んでください。

(複数回答可)



<その他の具体例>

・手をかけすぎた ・幼少時同年代の友達との関わり ・転校 ・叱り方 ・親の言葉遣い ・子供の個性の伸ばし方 ・子供同士の交流のあり方 ・兄弟での接し方 ・過保護 ・親が生き方の手本となれなかった ・精神的余裕がなく子育てをしてきた ・子供を尊重できなかった ・家庭学習の習慣の欠如 ・親の思いが伝わらない ・家庭での役割経験 ・生きる力をつけきれなかった ・子供に対する態度、助言の仕方 ・子供に合った方法での教育 ・色々な体験 ・過干渉 ・ほめること ・子供への関わり方と接し方 ・生活習慣、規則正しい生活環境ができていない ・親の都合を子供に押しつけたこと ・父親とのかわり ・離婚したこと (後悔はしていませんが) ・きびしさ ・自分の子育てが良かったのか

8 お子さんに対する家庭教育を考えたときどのような支援があるとよいと思いますか？

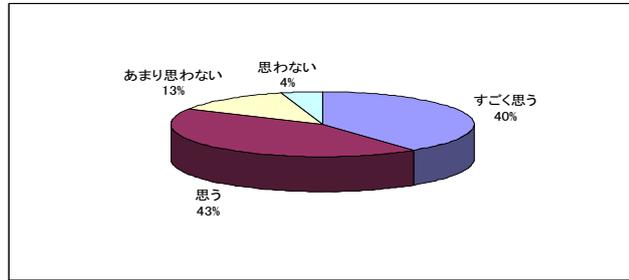
・他地域との関わり、情報交換 ・学校での様子に関する情報 ・異世代交流の機会 ・講話 ・勉強を見てもらえる施設 (無料か低料金) ・親子のマナー教室 ・いつでも身近に相談できる経験豊かな方 ・地域全体で親と子供のサポート施設 ・先輩方の助言 ・相談機関の充実 ・親子で気軽に相談できる年配者の支援 ・親が悩んでいるときに悩みをきいてくれる機関 ・祖父母や隣近所との密な関係 ・多くの子供との交流 ・携帯の所持せ方を知る機会 ・親子参加のイベントや学習会 ・親の精神的安定が図れる機会 ・親同士の悩み相談、意見交換 ・親以外の大人とのふれあい ・子供たちの数多くの経験、体験する場 ・中高生の子供と小学生の子供、また、その親同士の交流 ・子をしつける前に親を教育する場があったほうがよいのでは？ ・地域全体で子供を育て見守っていく体制 ・「親は、いつも子供の事を大切に思っている」という、子供に対する第三者から助言 ・放課後の学校開放 ・子供の心のケアの仕方の学習会 ・先輩お母さんたちの経験談などが聞ける機会 ・お金を使わなくても子供とふれあえる場所 ・公園のパトロール強化 ・適切なアドバイス

・マナーを教える授業 ・親が困ったとき、親身になって話をきいた頂ける窓口支援 ・経済的支援

・反抗期をむかえた子供への接し方などの講座 ・礼儀などを教えていない家庭に対する啓発 ・ノー残業の推進 ・子育てについて気軽に相談できる窓口 ・子育てに参考となるテレビ番組やDVD ・他力本願にならず子育てをするという親の意識の啓発 ・親子で楽しめる近隣の施設 ・公民館の利用 ・子育て情報誌 ・親が子供に勉強を教えるときのための手助けマニュアル (学習内容や教え方が親の世代の時と違うので)

アンケート3 (中学生用) 1 あなたは幼い子供 (0~6才) と遊んだ経験はありますか?
【ある90% ない10%】

2 あなたは幼い子供を
かわいいと思いますか?



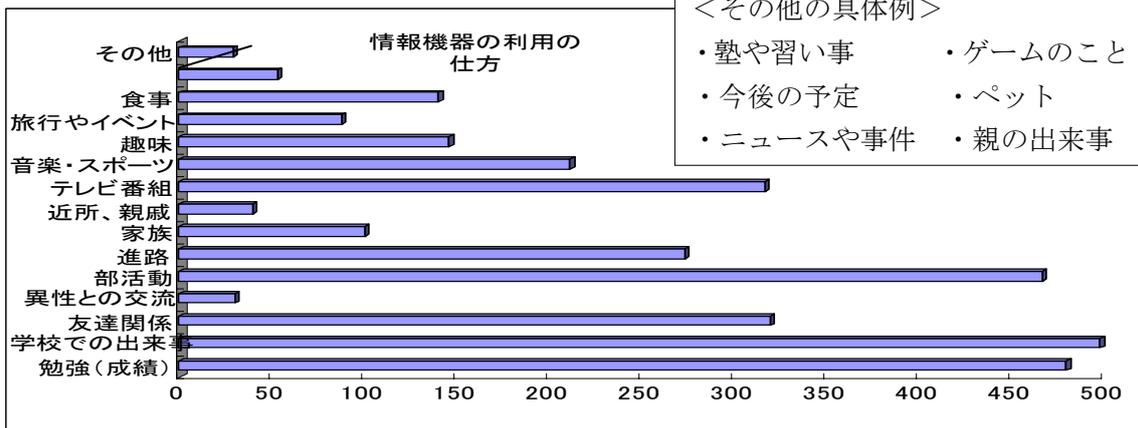
3 家の手伝いをしていますか?

【よくする17% 時々する55% あまりしない23% 全くしない5%】

4 普段、親と会話をしますか?

【よくする63% 時々する28% あまりしない8% 全くしない1%】

5 親との会話でよく話題にすることは何ですか?



6 あなたは将来、親になりたいと思いますか?また、その理由も書いてください。

【 思う77% 思わない23% 】

<「思う」の理由>

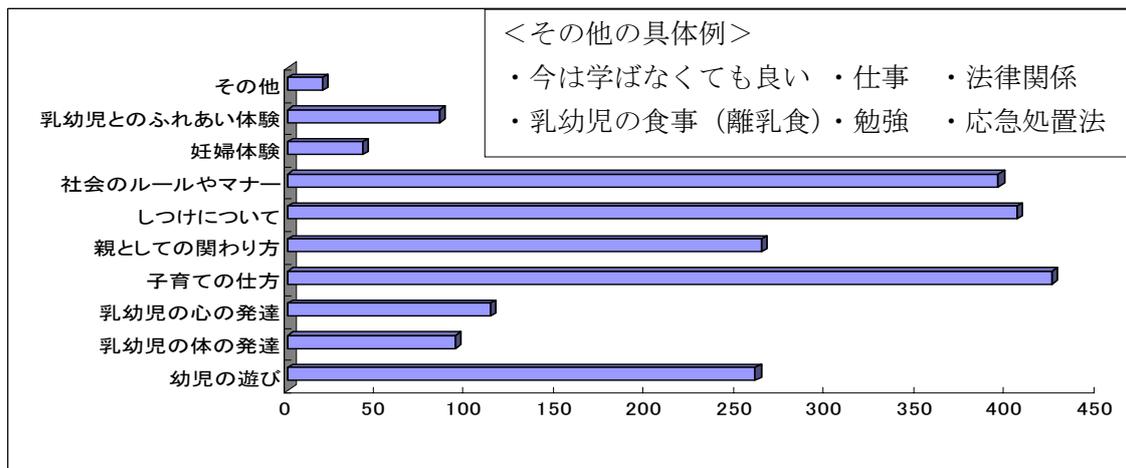
・親になることでわかること(親の苦勞やありがたさ)がある ・新しい命の誕生を感じたい ・教えたことがある ・好きなことをさせてくれる ・日本の人口が多くなってほしい ・大変さを体験したい ・幸せにすごしたい ・家族がいると将来辛いときに心の支えになると思う ・守るべき者ができる ・子供が好き、かわいい ・子育ては楽しく、おもしろそう ・自分の親のようにになりたい ・老後のため ・幸せな家庭を築きたい ・子供と遊ぶのが楽しい ・子育てをしながら仕事をしている母を見て ・親からしてもらったようなことをしてあげたい ・社会に貢献できる子を育ててみたい ・子供の成長とともに自分も成長できる ・子供は親に似るので、自分を客観的に見ることができる ・自分の子を抱きしめたい ・子供の成長を最初から最後まで見届けたい

・命を次の世代につなげたい ・親が自分をどんな気持ちで育ててくれたのかを知りたい

< 「思わない」 の理由 >

・面倒 ・今はよくわからない ・反抗期が大変 ・子育ての方法がわからず不安、自信がない ・何だか死に近づいて行きそうな気がする ・自分の時間がなくなる、自分のやりたいことをしたい ・何となく ・子供が苦手 ・自分の親と同じようになりそうだから ・将来の夢があるから ・経済的に不安 ・自分の自由な時間が短くなる ・親になる資格がないと思うから ・まだ、育てられている身なので

7 あなたは親になる準備として、今どのようなことを特に学んでおきたいですか？



8 生まれてから今までに親にしてもらったことで嬉しかったのはどのようなことですか？

・ほめてもらったこと ・きちんとほめ、きちんと叱ってくれること ・励ましてくれたこと ・自分のしていることを応援してくれていること ・悩みがあったりしたときにすぐに察知してアドバイスしてくれること ・苦しかったり、つらかったりしたときに慰めてもらったこと ・相談に乗ってくれ、真剣に考えてくれたこと ・気持ちを共感してもらったこと ・叱られると思ったことを正直に話したとき、笑って受け止めてくれたこと ・自分の話を真剣に聞いてくれること ・成績が悪くても怒らずに励ましてくれたこと ・マナーを教えてくれ、しつけをしてくれたこと ・大変な思いをして自分を育ててくれたこと ・看病してくれたこと ・絵本を読んだり、歌を歌ってくれたこと ・旅行などに連れて行ってくれたこと ・好きなことをさせてもらっていること ・今の楽しい環境を作ってくれたこと ・小さい頃肩車をしてもらったこと ・行事に参加してくれたこと ・家族のことを一番に考えてくれたこと ・勉強を教えてくれたこと ・一生懸命働いたお金を自分のために使ってくれていること ・あたりまえのことをあたりまえのようにやってくれていること ・産んでくれたこと ・毎日の食事や洗濯などをしてもらっていること ・ほしいものを買ってくれたり、プレゼントしてくれること ・誕生日を祝ってくれること ・毎日がすべて嬉しい

(3) アンケート調査の結果分析

【親が親として育ち、力をつけるための学習】に関わって

<アンケート1（乳幼児を持つ親用）>

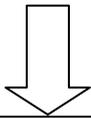
- ・「家族で協力しての子育て」の様子、「子育ての支援先の有無」に関する設問の回答からは子育てについて比較的良い状況にあることがわかる。
- ・友達を情報源とする親たちの中には携帯電話などを使った情報交換の方法をとる人も増えているようである。（回答してくれた人たちとの普段の会話から）
- ・子育てに対する不安を持っている人は多く、また、子育てに関する情報源としては友達の割合が多い。友達のように比較的気軽に相談ができ、しかも子育てについての不安を解消してくれるような解答ができる人の助言は貴重なものになると思われる。
- ・子育てについての学習会への参加は親にとって不安の解消などに役立つ。より参加しやすいように、親子が一緒に参加できるものや託児所の設置などを考慮すると効果的と考えられる。
- ・乳幼児期の家庭教育として大切にしたいものとして心の発育（思いやりなど）を多くの親があげている。しつけについては小学生になってからと考えている親もいるようである。しかし、それでは遅いのではないかとと思われるため、子どもが小さいときからのしつけを意識するような啓発も必要と考える。
- ・今回アンケートに回答してくれた親は、子育て広場などに参加している親なので、子育てに関して比較的意識が高い。また、子育てに関して、他の人とのふれあいを持ちたいと考えている人であるので、好ましい回答をする傾向が高いようである。

<アンケート2（小・中学生の保護者用）>

- ・子どもにつけさせたいものとして「礼儀」「ルールやマナーを守る気持ち」「基本的な生活習慣」「あいさつ」など、しつけとして家庭教育において身につけさせられるものをあげる回答が目立った。家庭教育の必要性を心得ての回答なのか、家庭教育では十分ではない反省からの回答なのか考える必要がある。
- ・子どもとの会話は比較的良好に行われている。その内容は大部分が学校生活に関わることである。親子の会話で親子ともに心が和むようになっているか気にかけていきたいところである。（中学生に対するアンケートからは家庭生活に心地よさを感じていることがわかる回答が比較的多かった。）
- ・子育てについて反省している保護者が多かった。子育てとは日々、悩み、反省を繰り返しながら行っていくものであるということがわかる。このことが今、子育てで悩んだり、苦しんでいる人の心の支えや不安の解消につながればと思う。また、親としての知識や心構えを学ぶ機会が設けられるということは親にとって有意義なことであることがわかる。
- ・家庭教育への支援に求めるものの回答からは「子どもは親が責任を持って育てる」という意識が乏しいのではないかと思える回答があった。

<アンケート1・2から>

- ・子育てを一人（多くは母親）で悩みながら行っている様子が少なからず読み取れる。
- ・子育てをしていくにあたって、周りの人との関わり、異世代の人との関わりが親自身にとっても、子どもにとっても大切であるとする親が多い。
- ・子育ての反省の中で「夫婦間の話し合い」と回答する割合も比較的多かった。子育てが母親だけに任されている現実があるのかもしれない。また、アンケートを回答してくれたのは母親がほとんどではないかとも思われる。直接回答したのが母親であっても日頃から夫婦間の意思の疎通ができているのであればよいが、母親だけの考えが反映された回答になっていることも予想される。
- ・親の関心は子どもが小から中に進級するに伴って変化している。乳幼児期の親の関心も小・中の親の持っている関心と相違が見られる。親の学習の内容は子どもの発達段階により、ふさわしいものを選ぶ必要がある。



アンケート調査の結果分析から考えて

家庭教育支援のための「親の学習」プログラムの効果的な活用に向けての提言

- ・子育てについての学習会として、参加体験型の「親の学習」プログラムは学習のしやすさという点からも効果的なものと考えられるため、より有効な方法を検討し、実践していく。
- ・「親の学習」プログラムを活用しての学習会は単発で終わらせることなく、年間を通して計画していけると効果的と思われる。
- ・乳幼児の親と小・中学生の親と合同の学習会も参加者同士の学びあいという点からも効果的と考えられる。
- ・子育てはだれもが悩み、不安の中で行っているものであるという事実の提示が子育てについての不安の解消につながられるよう工夫していけると効果的になると考える。
- ・取り上げるプログラムは、参加対象者のニーズや実態に合わせたものを選択する必要がある。
- ・取り上げるプログラムとして、異世代交流や夫婦間交流に基づくものが活用できると良い。
- ・学習を進めていく上での題材として子どもの考えや実態を取り入れることも大切である。（アンケート3「親にしてもらったことで嬉しかったこと」というアンケート項目の回答）
- ・できるだけ多くの親が集まる機会を利用しての学習会が開けると良い。（例えば、学校における年度当初の学級懇談会や就学説明会など）

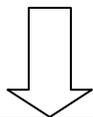
【親になるための学習】に関わって

<アンケート3（中学生用）>

- ・家庭生活に満足している中学生は家庭を築くことに夢を持っているようである。
- ・幼い子と遊んだ経験がない中学生が1割もいる。兄弟の少なさや近所の子ども同士の交流の少なさが原因となっていると思われる。
- ・1割以上の中学生が幼い子を「かわいいと思わない」と答えていることは深刻なこととしてとらえる必要があるのではないかとと思われる。
- ・手伝いをしている子どもの数が少ないように思う。手伝いをさせるということは家庭教育の大切な要素になると考える。
- ・幼い子をかawaiiと思っている子は自分も親になりたいと思う割合が大きい。幼い子とのふれあいや自分の幼い頃を知ったりすることは「親になるための学習」にとって貴重なものとなる。
- ・「親にしてもらったことで嬉しかったこと」というアンケート項目の回答からは子育てをしていく上で大切なことがわかる。親がしてあげるべきことのヒントとして、「親の学習」を実施する際の題材として扱える。

<アンケート2・3から>

- ・親子の会話では「あまりしない」と答えた中学生の割合が親よりも多かった。会話をしているという感覚において親子で多少のずれがあるのかもしれない。例えば、子どもの話しかけに対して、話したいこととは別のことを親が問いかけるなどが考えられる。



アンケート調査の結果分析から考えて

家庭教育支援のための「親の学習」プログラムの効果的な活用に向けての提言

- ・乳幼児とのふれあい体験は効果的な学習内容である。実施に向けての工夫をし、より効果的な方法を考えていく必要がある。
- ・小さな子をかawaiiと思える人間の育成をめざした「親の学習」の実践方法を考えていく必要がある。その中で、小さな子の自己主張（わがまま）を受け入れることのできる人間に自分を成長させていくことの大切さを啓発していく必要があると考える。（親が成長しきれていないことを原因とした虐待なども起こっている）
- ・親子で一緒に学ぶ「親の学習」学習会（授業参観などの活用）などの開催によって、親子で家族、家庭教育について考える機会が設定できると良い。

2 効果的な「親の学習」プログラムの実践方法

アンケート調査を踏まえ、効果的な『「親の学習」プログラム』の実践方法を検討し、実施計画案、指導計画案を作成した。

(1) 実施計画の内容

実施時期、対象者、展開するプログラム（ねらいを明確に）、教育課程上の位置づけ、実施上の課題、実施に向けての工夫配慮（会場、募集方法、運営方法（準備及び当日の運営計画と役割分担））、その他

(2) 実施計画の例（教育課程とPTA活動の2例を示す。）

ア 学校の教育課程上

作成者及び所属所	熊谷市立大麻生中学校 板橋 充
実施時間 (その理由)	時間：総合的な学習の時間（2時間扱い） 理由：幼児とのふれ合いを通しての学習であるため、時間に余裕を持って取り組み、理解を深めさせたい。
対象者	中学1年生
指導者	総合的な学習の時間担当教諭及び保育士の先生 内容を理解して参加していただける幼児を持つ保護者
展開するプログラム番号 (ねらいを明確に)	1-②「幼児を知ろう」 ねらい：実際に乳幼児や幼児とふれ合う体験を通して、接し方や視点の置き方を工夫、理解することができる。この活動により、幼い子を「かわいいと思わない」感情や、「子育てが煩わしい」「親になりたくない」という思いを持った生徒に対して、少しでも心の変化をもたらすことができればと考える。また、実際に幼児とふれ合うことから、専門的な知識を持った保育士の先生に参加していただくことで、事故防止や幼児と接する上での具体的な注意事項を学ぶことができる。このことは、参加する保護者にとっても有効であると考えられる。
教育課程上の位置づけ	総合的な活動の時間のねらいに基づく ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。 ・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
実施上の課題	・授業時間に合わせて参加していただける保護者を募る。 ・保護者の参加にあたり、学校としての扱いを確認する。 ・外部指導者として、保育士の先生に授業の依頼をする。 ・外部指導者、保護者との事前の打ち合わせを行う。
実施に向けての工夫、配慮 ・会場 ・募集方法 ・運営方法 (準備及び当日の運営計画と役割分担)	会場：体育館（椅子なし） 募集方法：中学校からの依頼文（保育園・保護者） 保育園または小学校から、参加していただける保護者募集呼びかけの依頼。 運営方法： <前日まで> ・当日の流れと役割について、事前に外部指導者と保護者との打ち合わせ ・生徒への事前学習。 ・生徒へ体育着など、活動しやすい服装での参加を指示。 ・グループの配置（保護者と幼児を含む） ・会場設営の計画（危険物の排除） ・ふれ合いに必要な用具をそろえる。（外部指導者との打ち合わせで） ・ワークシートの用意。 ・ワークシート「自分を振り返る」「自分史を作成する」（どちらかを実情に合わせ選択）作成のため家庭で資料収集し持参させる。 ・記録用ファイル、筆記用具等の用意を指示。 ・マイク等の用意（指示が通らないようであれば）

	<p><当日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員主導で運営する。(時間配分等) ・目的やねらいをもとに、グループごとにふれ合いを深める。 ・グループごとにまとめを発表できる場を設ける。
配慮事項：	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や怪我のないように注意させる。 ・全員が幼児とふれ合えるように観察をする。 ・保護者が入る班をあらかじめ決めておき、班長が案内して班に入ってもらえるように班長に連絡をしておく。 ・人の感じ方は様々であるため、「押しつけ」ではなく「気づき」を大切に授業を進めるよう心がける。 ・ワークシートを掲示するのであれば、あらかじめ内容を考えて記入するように、掲示することを生徒に伝えておく。
その他	

イ PTA活動

作成者及び所属所	深谷市立川本中学校 PTA 役員 松村佐和子
実施時期 (その理由)	平成21年5月頃 (例年実施されているPTA事業を生かすため)
対象者	川本中学校の保護者
指導者	県が養成した「親の学習」指導者 (川本中学校 養護教諭) (川本中学校 管理栄養士)
活用するプログラム番号 (ねらいを明確に)	4-② 「子どもが元気になる生活リズムとは？」 家庭での食事や生活リズムについて見直す 親としてどんなことに気を配るとよいかを考え、実践につなぐ
教育課程上の位置づけ	
実施上の課題	従来の事業を生かし、親が子育てについて考える機会をつくる 中学校入学当初の親の不安を親同士が語り合うことで乗り越えることができるようにする
実施に向けての工夫、配慮 ・ 会場 ・ 募集方法 ・ 運営方法 (準備及び当日の運営計画と役割分担)	川本中学校・調理室 (深谷市) 30名程度 生徒を通じて保護者宛の通知を配布 (PTA 理事会や PTA 総会において告知、部会員の友人を誘うなど工夫は必要) 給食試食会と学習会の二部構成とする。(親の学習→給食試食会) グループの話合いは「親の学習」指導者が進行・助言を行う PTA 保健給食部で行う 給食試食会については今までとおりの実施 PTA 保健給食部長が中学校職員給食担当者と相談し、指導助言を受けて実施計画を立てる
準備及び予想される役割	講師依頼 案内文書作成 会場予約 指導者及び渉外係の先生との調整 資料ワークシート作成 アンケート作成・集計 参加者確認、班分け、班長決め 会場作成・片付け 筆記用具準備・片付け
当日の運営計画	10時半役員集合・準備→11時受付→11時半学習会→12時半試食・片付け・アンケート記入→13時半終了・後かたづけ→14時役員解散
その他	

(3)実施計画一覧表(検証授業・講座)

	月日	曜日	実施主体	展開形式	実施会場	指導者等	対象者	活用したプログラム	
1	5月1日	金	熊谷市立大麻生中	学級会	教室	担任	中学2年生	1-①	家族って何だろう？
2	5月27日	水	越谷市公民館	家庭教育学級	新方公民館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	3-④	こんなときどうする
3	6月3日	水	越谷市公民館	家庭教育学級	出羽公民館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	3-④	こんなときどうする
4	6月6日	土	深谷市立川本中PTA	給食試食会	調理室	県の養成者	中学保護者	4-②	子どもが元気になる生活リズムとは？
5	6月上旬		深谷市立川本中	家庭科	教室/教室の外/階段	教員	中学3年生	1-③	お母さんになるってどんな感じ？
6	6月9日	火	越谷市公民館	家庭教育学級	越谷公民館	県の養成者	1・2歳児を持つ親	3-④	こんなときどうする
7	6月12日	金	越谷市公民館	家庭教育学級	増林公民館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	3-⑤	ステップ・バイ・ステップ
8	6月25日	木	深谷市立川本中	家庭科	体育館	教員・乳幼児の親子	中学3年生	1-②	幼児を知ろう
9	7月14日	火	所沢小手指中PTA	地区懇談会	八区集会所	さわやか相談員	中学生を持つ親	5-①	子どもでもない大人でもない
10	7月18日	土	所沢小手指中PTA	地区懇談会	小手指公民館	校長	中学生を持つ親	5-①	子どもでもない大人でもない
11	7月22日	水	所沢小手指中PTA	地区懇談会	椿峰コミュニティ	さわやか相談員	中学生を持つ親	5-①	子どもでもない大人でもない
12	7月23日	木	所沢小手指中PTA	地区懇談会	上新井会館	教頭	中学生を持つ親	5-①	子どもでもない大人でもない
13	7月23日	木	所沢小手指中PTA	地区懇談会	小手指公民館	さわやか相談員	中学生を持つ親	5-①	子どもでもない大人でもない
14	7月25日	土	所沢小手指中PTA	地区懇談会	小手指公民館	さわやか相談員	中学生を持つ親	5-①	子どもでもない大人でもない
15	7月29日	水	所沢小手指中PTA	地区懇談会	新所沢コミセン	さわやか相談員	中学生を持つ親	5-①	子どもでもない大人でもない
16	10月14日	水	深谷市立川本中PTA	家庭教育学級	川本北小	県の養成者	小・中学生をもつ親	4-②	子どもが元気になる生活リズムとは？
17	10月15日	水	越谷市公民館	家庭教育学級	大沢公民館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	2-③	「しつけ」ってなに？
18	10月21日	水	越谷市公民館	家庭教育学級	出羽公民館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	3-②	子どもと一緒に生活習慣をつくらう
19	10月27日	火	越谷市公民館	家庭教育学級	蒲生公民館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	3-②	子どもと一緒に生活習慣をつくらう
20	11月4日	水	三郷市立北公民館	主催事業 家庭教育学級	北公民館	県の養成者	3か月～1歳6か月の子を持つ親	3-⑤	ステップ・バイ・ステップ
21	11月中旬		深谷市立川本中	家庭科	幼稚園	教員	中学3年生	1-⑤	乳幼児とふれあう
22	11月18日	水	越谷市公民館	家庭教育学級	新方公民館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	3-②	子どもと一緒に生活習慣をつくらう
23	11月27日	金	草加市有志団体	家庭教育学級	草加市民体育館	県の養成者	2・3歳児を持つ親	3-④	こんなときどうする
24	1月19日	火	熊谷市立大麻生中	総合的な学習の時間	体育館 視聴覚室	総合担当 幼児とその親 外部指導者	中学生1年生全員	1-②	幼児を知ろう

3 実践例の提示

学校（教育課程）

展開形式	活用したプログラム		ページ
総合的な学習 の時間	1－②	幼児を知ろう	18～20
家庭科	1－③	お母さんになるってどんな感じ？	21～23
	1－②	幼児を知ろう	
	1－⑤	乳幼児とふれあう	
特別活動 (学級活動)	1－①	家族って何だろう？	24～26

学校（PTA活動）

展開形式	活用したプログラム		ページ
地区懇談会	5－①	子どもでもない大人でもない	27～29
給食試食会	4－②	子どもが元気になる生活リズムとは？	30～32
小・中合同 家庭教育学級	4－②	子どもが元気になる生活リズムとは？	33～35

公民館

展開形式	活用したプログラム		ページ
赤ちゃんひろば の特別講座	3－⑤	ステップ・バイ・ステップ	36～38
家庭教育学級	3－④	こんなときどうする	39～41
	3－②	子どもと一緒に生活習慣をつくろう等	

実践例 1

学校「総合的な学習の時間」

熊谷市立大麻生中学校 板橋 充

- 1 **ねらい** 総合的な学習の時間に「親の学習」プログラムを導入し、家庭教育支援を図る。
- 2 **対象者** 中学1年生2クラス 63名
- 3 **実施日** 平成22年1月19日(火)
- 4 **会場** 体育館
- 5 **活用したプログラム**



「1-② 幼児とふれあう」

- 6 **目標** 幼児とその保護者とのふれ合いから、親子の愛情の深さや、将来親になったときの自分を考える。
- 7 **指導者** 総合的な学習担当者TT外部指導者：保育士協力者：園児と保護者（15組）
- 8 **展開する上での工夫・配慮**

第1次	○今までの自分を知らう。 ・現在までの自分を振り返る。(家族への取材) ・自分新聞を作る。	1時間 1 冬休みの宿題
第2次	○幼児を知らう。 ・幼児とのふれあい・親子の在り方 ・幼児について知りたいことや子育てについて親に聞きたいことを考える。 ・外部指導者(保育士さん)と、幼児と遊び方を考え学ぶ。 ・幼児と遊びながら親子のかかわりを知る。(親へのインタビュー) 本時	4時間 1 1 2
第3次	○家族を知らう ・家族へのインタビュー ・家族について知っていること、知らないこと、知りたいことを調べインタビューをする。	1時間 1
第4次	○今までの自分とこれからの自分 ・今までの学習をとおして、家族の一員としての自分について考える。	1時間 1

- (1)「総合的な学習の時間」の趣旨に合わせ、単発的な単元とせず、探求的、課題解決式の内容となるため、生徒自らが課題を見つけ、解決していくような授業の流れを考えた。そのため本題材は、「共に生きる」という7時間計画の中の2時間として行った。
- (2) 保育園との連絡を綿密に行い、保護者への文書配布は、保育園をとおして行った。
- (3) 保育園の保護者全員へ、依頼プリントを配布した。



**保育園へ
依頼文書**

熊谷市立大麻生中学校
総合的な学習の時間に関するご依頼

このたびは、中学校の授業にご協力いただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、お仕事を中断して、全員の保護者の方へ、打ち合わせの時間を確保していただき、誠にありがとうございます。文書で各目的の読めとご依頼についてお伝えさせていただきます。

ご不明な点は、ご都合の良い時間帯に電話でお問い合わせください。ご不明な点がございましたら、ご返信をお願いします。

記

授業日 平成22年1月19日(火)

時間 午後1時40分～2時30分
(1時30分に集合：顔合わせと簡単な打ち合わせ)

場所 体育館

服装 園児は動きやすい服装をお願いします。
保護者の方も、真に前での授業となります。
冷えやすいので暖かい服装でお越しください。

持ち物 園児は上履きをご持参ください。
保護者の方には、スリッパがおすすめです。

駐車場 校舎側の駐車スペースにしてください。

授業の趣旨 幼児とのふれあいを通じて今までの自分を振り返り、
授業の趣旨 家族のありがたやこれからの自分のあり方を考える。

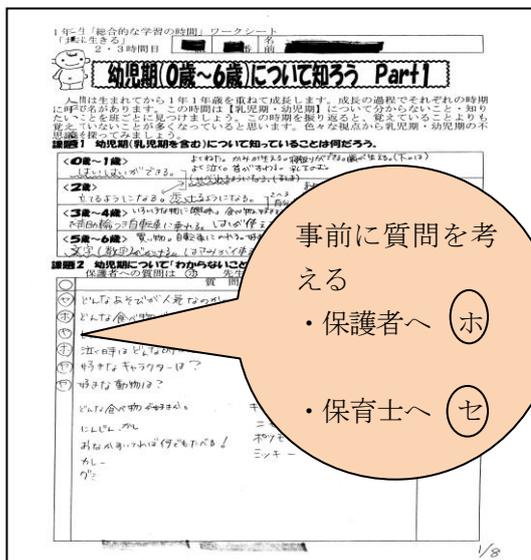
当日の流れ

- ①グループに入ってもらっていただき、生徒からのインタビューを受ける時間を確保しておきます。
- ②保護者の方を中心に、積み木で遊びます。補助をお願いします。
- ③積み木を前に写真撮影します。また、授業中の様子も写真撮影いたします。何枚か教育センターのホームページに掲載させていただきます。
- ④一部が新しい組合わせで遊ばせてお出しください。
- ⑤お帰りの際、ご挨拶をお願いします。

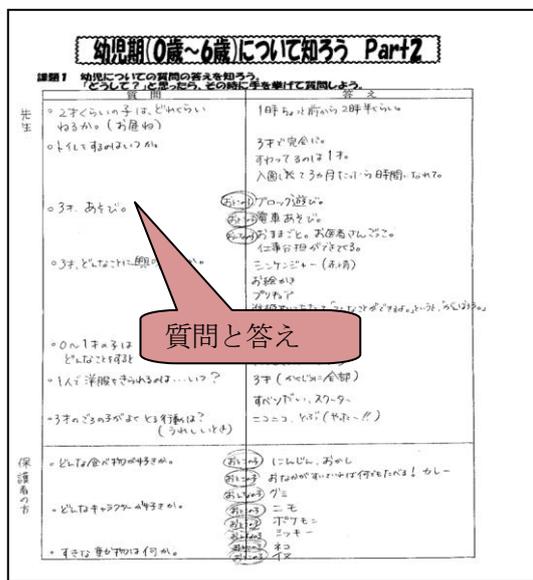
その場でご記入のうえ、ご提出ください。

問い合わせ先 大麻生中学校 板橋 充
TEL. 03-2-33375

(4) 参加する園児の保護者には、不安を減らすため、事前にインタビューの内容を文書で知らせた。(事前の学習で生徒に考えさせ、まとめたもの：資料編P4)



参照：資料編P3・4



参照：資料編P3・4

- (5) 特別日程（授業日と授業時間の設定）を組むなど計画的に準備した。
- (6) 学校・保育園・園児の保護者の相互理解のもとで授業当日を迎えられるようにした。(保育士には授業計画の立案の段階から相談した。)
- (7) 全職員の理解のもと授業に臨んだ。
- (8) 幼児と保護者に御礼状を渡した。
- (9) その他・予算調整・駐車場・控室の確保

9 生徒の様子

- 生徒は、本単元のスタート時から、このふれあいを大変楽しみにしていた。
- はじめは人見知りをして、なかなか幼児や保護者に声をかけられずに、生徒同士で硬直していたが、徐々に周囲に溶け込み、コミュニケーションを取れるようになった。
- 授業終了後に、「もっと遊びたかった。」「次はいつくるの。」という声が多く聞こえた。
- 園児と体験した「積み木」はとても楽しい思い出になったと多くの生徒が感想を持った。
- 生徒にとって、幼児期は自分の記憶に薄い時期であるため、親子の関わりを間近で見て、直接疑問に答えてもらうことによって、自分の幼少の頃を振り返り、想像し、親との関わり合いを感じることができていた。

保護者への依頼文書

この授業への協力をお願いいたします。

このたび、本校が、中学校1学年の「総合的な学習の時間」において、「幼児と遊ぼう」という授業を計画しております。

授業の目的は、「親子の様子を通して幼児の望ましい成長には心身の発達に応じて適切な関わりが必要であり、この機会に信頼関係や愛があることに気づかせる。そして今後、幼児と関わる機会や将来自分が親になった時、適切な行動をとることができるようにする。」とです。

この授業に、親子（保護者と幼児）で、参加をお願いしたいと思います。

当日は、中学1年生の小グループに入ってください。「積み木遊び」を通して、生徒に幼児とふれあう機会を与えていただきと共に、互を見てほしいと心を保護者の皆様、生の声を聞かせていただきたいと思っております。ご参加の保護者の皆様には、中学生との交流もしていただければ幸いです。

ご参加いただける方は、下記の事項にご記入いただき、保育園に1月21日までにご提出ください。どうぞよろしくお願いいたします。

記

期 日 平成22年1月19日(火)

時 間 午後1時40分~2時30分

場 所 体育館

きりとり

保育園のクラス	参加者名
組	園児名
	保護者名



- 将来親となったとき、子に対する思いを素直に文章で表現することができていた。



10 成果

- 体験を通した授業は、総合的な学習の時間の趣旨に合った方法であり、幼児とのふれあい体験を通して、「楽しみながら気づく」「身に付く」ことの多い授業となり効果的であった。
- 生徒63名に対し、15組の親子の協力があり、密度の濃いふれあいができた。
- このプログラムはこの授業に最適であり、かわいらしさを実感でき、本題材の趣旨にそった充実した授業となり、効果的である。
- 1年生の時期に、この授業に組み込むことは中学3年間のうちの適切な時期である。
- 保育士を招いたことは、専門的な知識と豊富な経験に基づく説明で、生徒が理解しやすく効果的である。
- 保育園との協力と広報活動の効果があり、予定よりも多くの方の参加協力があった。
- 保育園等とのつながりが深まり、今後の取組みに対する協力体制づくりができた。

11 今後の課題

- ◆本題材を「総合的な学習の時間」として行うとき、その趣旨に合った取り組み内容、方法であることが条件である。
- ◆本題材を単発の授業として行ったときの位置づけは、「特活」に属すると思われる。
- ◆学校で取り上げる場合、どの分野で扱うかによって、授業の流れや目標達成へのアプローチの方法が変わってくるため、年間計画を立てる時期に、あらかじめ「親の学習プログラムを活用する授業を取り入れる」というところから出発していないと、総合的な学習の時間での扱いは難しくなる。
- ◆初対面の親子と一緒に授業に参加し、遊ぶ体験の中から課題を解決していく為には、1時間（50分）の授業では短く、2時間続きのふれあいとその後のまとめの形が望ましい。
- ◆お互いの抵抗を減らせるように導入にレクリエーションを入れたが、時間がかかった。
- ◆寒い時期の体育館で実施よりも、もう少し条件の良い時期がよい。
- ◆3年間を見通し、家庭科との兼ね合いを考える必要がある。



計画書 細案

子どものふれあい交流会 計画表

実施日	○月○日(○)	○校時
場所	○保育施設	
担当	○指導教員、ふれあいサークル委員、児童を支援しているボランティア	
持ち物	各級の道具	

★ 目標
すでに親子は関係しています。びっぴりききせうに気を付けよう！
10:50 到着時～ 集りに整列(園長先生・基本説明) 親子と向かい合う。

10:52 挨拶(基本説明に戻る) 司会進行:学級代表()

★ 代表(学級代表:)のあいさつの後、全員で「定しくお話しします。」とあいさつをする。はじまりのあいさつです。大きな声で!!

★ 親子グループ代表(さん)の挨拶で「お話しします。」とあいさつを交わす。

10:55～11:10 ふれあい①(団体:アンパンマン体操、ペンダグキゴアラ、大きな声の下で)

11:10～11:15 ふれあい②(個別:パズルにイン!)
・パズルにソフトボールを入れ、どの組が一番入ったか競争。
・終了したら、頑張った組に賞状をプレゼント!(副園長)

11:15～11:30 質問タイム(各級まるくなって、順に質問する) この時、しっかり話を聞いて、ワークシートに記入する。

11:30 基本説明に戻る。(早く～!!)

11:30～11:40 司会進行:学級代表()

★ 代表(学級代表:)のあいさつの後、全員で「ありがとうございました。」とあいさつをする。感謝の気持ちを大きな声で伝えよう!!

★ 親子グループ代表(さん)の挨拶で「ありがとうございました。」とあいさつを交わす。

11:40 親子送別(音楽に合わせて、拍手で送り出す)

参照：資料編 P8・9・10

お母さん・お父さんに聞いてみよう!

☆ お母さんやお父さんに直接聞いてみよう!

<質問その1>

<質問その2>

メモ

質問と答え

3か所の保育園等への
依頼文書

1. おねがい
① 幼児の生活を観察したい
② 授業(パズル等)
③ 各級一人一人が、自分の得意なことを発表し、自分の得意なことを発表し、周りの人々に感謝の気持ちを述べたい。

2. 日時および訪問学級
① 平成○○年○月○日(○) 9:10～10:20 3年C組 ○○○組
② 平成○○年○月○日(○) 9:10～10:20 3年C組 ○○○組
③ 平成○○年○月○日(○) 9:10～10:20 3年C組 ○○○組

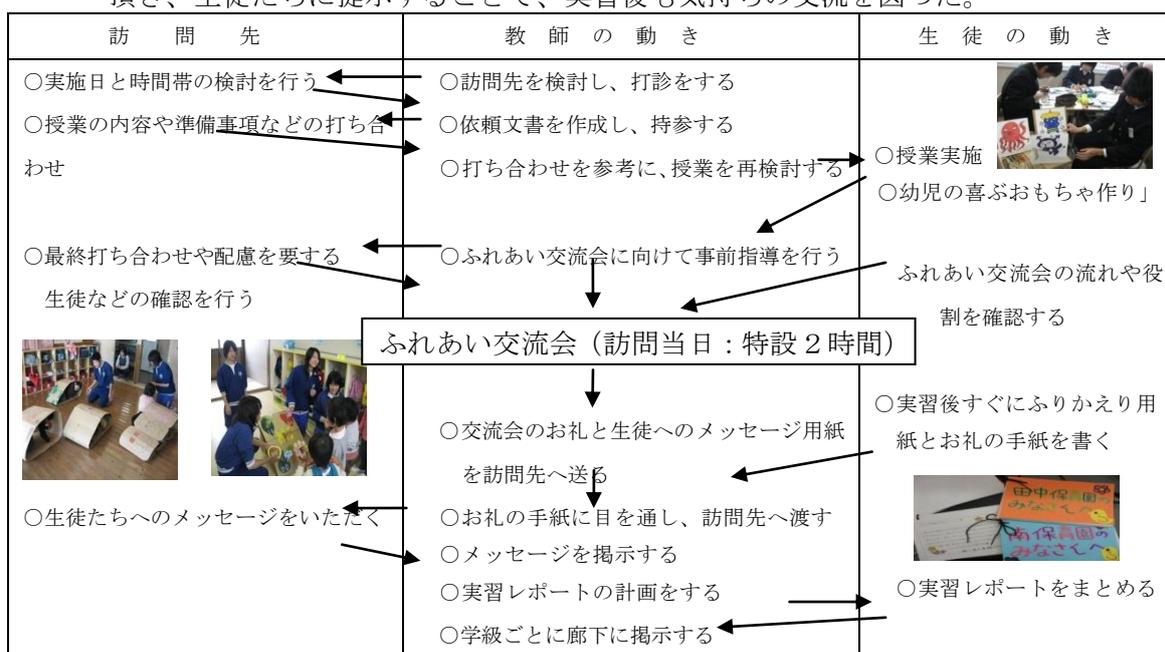
3. 訪問先 先生 3年C組(男子○○名、女子○○名) 計○○名
3年C組(男子○○名、女子○○名) 計○○名
3年C組(男子○○名、女子○○名) 計○○名

引率 教員 ○○○

4. 日時および内容
8:50 中学校出発
9:10 保育施設到着・準備
9:10～9:20 以上の内容(各級別・園長先生の紹介など)
9:20～10:00 ふれあい交流会(40分間)
10:00～10:20 お別れの会(お礼の手紙、賞状のプレゼントなど)
10:20～10:30 帰校
10:30～10:40 22分

NO3 「1-⑤ 乳幼児とふれあう」

- (1) 学校からの距離や場所を把握し、学級数と同じだけの訪問先を探した。
- (2) 事前に連絡を取り合い、計画書を持参して訪問先を訪ね、活動内容やそれにふさわしい場所を確認し、時間等の検討も行った
- (3) 授業でのおもちゃ作りと並行させ、製作したおもちゃとその遊び方を訪問先に連絡し、最終的な打合せを行い、配慮を要する生徒を知らせ、訪問先の先生方と共通理解を行った。
- (4) 帰校してすぐに体験した内容をワークシートにまとめさせ、実習レポートを書く際にも利用できるようにした。
- (5) 訪問先の先生や幼児あてに手紙を書かせた訪問先に渡し、先生方からのコメントを頂き、生徒たちに提示することで、実習後も気持ちの交流を図った。



7 授業の様子や生徒の感想

NO1 「1-③お母さんになるってどんな感じ？」では

- 男子は、最初、なぜやるのか等(必要性の理解が乏しい)意欲が低かった。
- 男女を問わず、妊婦の大変さがわかったとの意見が多かった。
- 妊婦への思いやりの気持ちや母への感謝を持つ感想が多かった。
- 授業の導入時の赤ちゃん誕生のVTR視聴で、乳児に対する理解が深まった。
- 2人組で実技を行い、効率的に体験させることができた。
- 水の扱いが、大変であった。(準備と後始末 ビニールの袋場合)

NO2 「1-② 幼児を知ろう」では

- 直接母親に子どもの誕生の話が聞けて感動したという意見があった。
- 女子は「かわいい」の連発で、男子は恥ずかしがり、照れながら幼児に話しかけていた。
- 実際に泣いてしまう赤ちゃんを見て、子育ての大変さを実感できたという感想があった。
- 悩みは一人で抱えず相談するという母親の言葉を、真剣に聞く生徒が多かった。
- 事前の妊婦体験や幼児の特徴について学習したことで、幼児について理解が深まった。

NO3 「1-⑤ 幼児とふれあう」では

- 自分たちもこんな時期があったんだなと思いました。
- やんちゃな子、恥ずかしがり屋など色々な子がいたが、小さくてかわいいと感じた。
- 保育士さんは、幼児の目線で、ゆっくり丁寧な言葉ではなし、相手の立場になって行っていることに感心した。
- 生徒は、幼児に優しく声をかけ遊びに誘い、だんだんと互いが馴染んでいった。
- 生徒は、普段見せない自然な優しさを表現し、童心に戻り幼児と遊んでいた。

8 成果

- 単発で乳幼児とのふれあいを経験するだけでなく、系統的に赤ちゃんの体の特徴や妊婦の大変さを理解した上で、体験させることにより感動があり深い学びの場となる。
- 母親から直接、子どもの誕生の話聞き、また、悩みは一人で抱えず相談するという話は、説得力があり、「親になるため学習」として有効である。
- 赤ちゃんが泣きだしたり、ぐずったりすることで、子育ての大変さをより現実的に知ることができる。
- 幼児と直接ふれあい、可愛らしさを実感することは、自分の子を愛情持って育てたい気持ちを高めることにつながる。
- 母親と事前の連絡を密に行うことが大切であり、母親は赤ちゃんが泣いたり、ぐずったりすることで、授業に迷惑をかけてしまうことが不安であり、心配している。
- 関係機関(公民館の子育てサークル等)との連携を図ることにより、乳幼児とその親の協力や行政側からの支援を受けることができる。
- 2年続けての保育園訪問なので、保育士から昨年の経験から助言を生かし、改善できた。

9 今後の課題

- ◆全クラスで、幼児とその保護者を学校に招いて行うには、学校とお母さんの両方の日程調整が難しい。また、事前に乳幼児を持つ母親との打合せを入念に行う必要がある。
- ◆導入で赤ちゃん誕生のビデオを見せ、妊婦体験をさせる場合は、1時間の中で行うには展開に工夫する必要がある。

実践例 3

学校「特別活動（学級活動）」

熊谷市立大麻生中学校 板橋 充

- ねらい 授業参観の特別活動（学級活動）の時間に「親の学習」プログラムを導入し、家庭教育支援を図る。
- 対象者 中学2年生 2クラス各30名
- 実施日 平成21年5月1日（金）
- 会場 各教室
- 活用したプログラム 「1-① 家族って何だろう？」
- 目標 現在の自分を取り巻く環境と家族のあり方を改めて理解し、日常の生活に生かすことができる。
- 指導者 各担任
- 展開する上での工夫・配慮



- (1) 50分授業計画として内容の検討を行う。（元は60分授業）
- (2) 募集方法は
 - ・保護者に向けて「学校だより」でのお知らせを載せる。
 - ・学年から「学年通信」に実施のお知らせを載せる。
 - ・担任から「学級通信」を通しての呼びかけを行う。
- (3) 担任が、事前に授業内容についてのアンケートを実施することで、授業の内容を保護者に知らせると共に、授業前にアンケートを通して参加していただく。

保護者へのアンケート用紙 (参照：資料編 P 3)

2年C
来週の子
しいと存じますが、アンケート
※簡単に答えたいだけで結構です。 ※無記名でお願いいたします。

質問1・・・どんな「家族」をつくりたいとお考えですか？
(理想の家族とはどんな家族ですか?)

例) 仲の良い家族、あたたかい家族

質問2・・・家族との関わりの中で、「嬉しかったこと(思い出)」はどんなことですか？

例) 具合が悪かったときに娘がおかゆを作ってくれた

質問3・・・家族との関わりの中で、「いやだったこと(思い出)」はどんなことですか？

例) 娘に「○○!」と暴言を言われた

質問4・・・お子さんに「家族の一員としてこうしてほしい(求めること)」と思うことは何ですか？

例) うるさく言いたくないからすずんで勉強してほしい、うがい・手洗いをしてほしい

「家族」について考えよう

・・・事前アンケートより・・・

- 保護者の声
- 「家族」について考えたこと(思い出)は何ですか？」
- 具合が悪かったときにホットプレートで料理を作ってくれて、台所用手を全てやってくれた。母としては嬉しく思っていました。
 - 忙しいときにお手伝いしてくれました。(5人)
 - 目標は自分だけの仕事をしていく。
 - 体調が悪かったとき、他の家族が協力して家事をしてくれました。
 - 体調が悪いときや忙しいときに、食事を作ってくれました。(4人)
 - 弟(10才)の宿題をよく見てくれたこと。(6人)
 - 誕生日や記念日を祝ってくれた。
 - 家族の誕生日に部屋を飾り付けて子供達で祝ってくれた。
 - 自分(子供自身)の誕生日に、お母さんからプレゼントをもらって嬉しかった。
 - 家族そろって食事するとき。
 - 作った料理を「おいしい」と言ってくれた。
 - 家族に感謝を伝えることができた。
 - 健康に育っていること。
 - 兄弟が仲良く助け合っていること。
 - 成長していく中で「こ
 - 家族が入院したとき家族みんなで支えてくれた。

「家族」について考えたこと(思い出)は何ですか？」

- 心配して声をかけているのにな
- ワザがなくて話を聞こうとしない
- 「他の家の子どもに生まれたかった」と言われた
- 友達と何分あったときにも肩を叩いてイライラしていた
- 親を拒絶された。
- なし(5人)
- 家族の誰かのどなり合い
- 家族を思っていたことに対して分かってもらえずに返されること。
- 忙しいときに手伝わぬと手伝わぬと
- 自分を出さないで勝手に行動をしようとする。
- 自分勝手なことをされたとき。
- 家族が一人暮らしを始めたら出ていってしまうこと。
- 注意をされて泣いているとき。
- 体調を崩して入院したとき小学生の友達や離れた息子としばらく会うことが出来ずに寂しい思いをさせてしまったこと。本当に寂しい思いをしたこと。
- 子供の前で夫婦げんかをしてしまい、子供に嫌な思いをさせてしまった。
- 反抗期で大きな声で意見を言われると、自分の時は・・・と考え、間をおいて間違いを正してあげようとしています。

保護者のアンケート集計
参照：資料編 P 4

事前のアンケートと集計（生徒用）
（参照：資料編 P 3・4）

生徒の学活アンケート

※各項目に○か×か記入してください。

質問1・・・どんな「家族」が理想ですか？

例) 仲の良い家族、あたたかい家族

質問2・・・家族との関わりの中で、「嬉しいこと（思い出）」はどんなことですか？

例) 具合が悪かったときに○○がおかしを作ってくれた

質問3・・・家族との関わりの中で、「いやだったこと（思い出）」はどんなことですか？

例) けんかしたこと

質問4・・・保護者に「家族の一員としてこうしてほしい（求めること）」と
思うことは何ですか？

例) 優しい言葉で言ってほしい

子どもの声

・・・事前アンケートより・・・

☑ 家族との関わりの中で嬉しいこと（思い出）は何ですか？

○テストで頑張ったらほめてくれた。 ○手紙をしたらほめてくれた。
○夏をとったときや検定に合格したときにほめてくれた。
○褒めてくれた。(3人)
○小さい頃習字をしたときに家族がそばにいて声をかけてくれた。
○お母さんとは仲があまり良くないけれど祖母がいつも看病してくれた。
○お祖母が思い出とお母さんがずっとそばにいてくれて弟が私の好きな食べ物を買ってきてくれた。
(しかもおこづかいで)

○母が仕事を休んで看病してくれた。 ○おかしを作ってくれた。
○学校を休んだとき優しくしてくれた。 ○お母を出したときあまり疲りに看病してくれた。
○お母が「おはよう」と言ってくれた。 ○お母が「おはよう」と声をかけてくれた。
○小6の卒業式前日に旅行に行ったこと。 ○ついでに祖母とふたりで美術館に行ったこと。
○欲しい物を買ってくれた。 ○どこかに連れて行ってくれた。
○家族みんなで旅行に行ったこと。 ○お母の病気を心配してくれる。
○いつも料理を作ってくれた。 ○事件が起きたときお祖母の支援。

☑ 家族との関わりの中でいやだったこと（思い出）は何ですか？

●けんかをした。(9人) ●父とけんかして話をしないでした。
●祖母と父けんかをしたこと。 ●家族けんかをした。
●お母がけんかをしていてよきときのこと。 ●ムカッ。
●「勉強しろ。」としてくる言葉。 ●なし。(3人)
●予定していた旅行が父の都合でだめになったこと。
●他の人と比較する。 ●おどろかしたり八つ当たりする。
●お母さんなどのごく偉りが強かったこと。 ●おどろかされたこと。
●母親が一方的に話を聞いてくれなかったこと。 ●話しているのに話を聞いてくれなかったこと。

☑ 保護者に「家族の一員としてこうしてほしいこと（求めること）」は何ですか？

☆物にない。(3人)
☆もう少し自由にしてほしい。(既読おいてほしい)
☆けんかしないでほしい。 ☆けんかをしてない家族でいたい。
☆すぐにおこなわないでほしい。(2人) ☆優しい言葉で言ってほしい。(2人)
☆先生きてほしい。 ☆もう少し自分のことをわかってほしい。
☆お祖母からかみかみしないでほしい。 ☆お祖母をもたないで。
☆お祖母についてもっとくわわい。 ☆お祖母の病気を心配してくれること。
☆優しいままの父・母でいてほしい。 ☆家族の悪口は言わないでほしい。
☆嫌なことを言わないでほしい。 ☆休日に家族全員で旅行など家内に行きたい。
☆お母さんや祖母が優しくしてほしい。
☆自分自身でできたことにはちゃんとできてから言ってもらいたい。
☆勝手にきんないでほしい。 ☆メニューを自分好みにならないでほしい。
☆いつも健康でいてほしい。

- (4) 男女各2名（役割上原則として）のグループを作る。
- (5) ワークシート作成、印刷する。
- (6) 資料の拡大掲示用紙（時間によってまとめとして話をする。）
- (7) 演じられないグループのために、全体の前で演じる代表を考慮しておく
- (8) 家庭での日常の様子が演技に投影されることが予想され、各家庭の様子が感じられることでグループ活動が盛り上がることを考えられるが、会話が本題からそれる場合は、助言が必要になる。
- (9) ワークシートに書き込む会話の内容が、あまりにもかけ離れていたり、過激である場合は助言が必要となるが、できるだけグループ内で考えさせるように導く。
- (10) 特に年度の初めの授業参観は、保護者の参加率が高いので、内容的にも興味のある課題だと思われる。



男女各2名のグループ



9 授業の様子と生徒の感想

- クラス独自のアンケートにより、保護者が生徒を育てる過程でどのような思いを持ったか、大変だったこと等を発表したことで、「自分が今まで大切に育てられたのだ。」ということに改めて感じた生徒が多かった。
- 指導者が担任であるため、家族に関する内容は担任の個性を反映していた。例えば、今回の授業では「未婚女性で子どもがいない担任」「大学生の娘を持つ父親の担任」というように、条件が違うためクラスごとの授業に変化があった。
- 保護者は、生徒の発表に対してうなずいたり、拍手を送ったり、いろいろ考えるところがあったようだ。
- グループ活動を取り入れたことと、内容が生徒にとって大変理解しやすいこともあり、大変活発に取り組んでいた。



10 成果

- 参観当日の家庭での話題として話されることで、十分親子での学び合いが出来る内容でもある。なにより、このことに関する会話が、家庭で保護者と生徒でされたことが、今回の大きな成果である。
- 事前に家族等のアンケートを保護者から取り、まとめたプリントを学年便りで配ることは、当日参加できなかった保護者に多様な回答例を知らせることができ、子を知る手掛かりとなり、親子の学びにつながる。
- 本題材は、親子の対話によって構成される内容であるため、グループの作り方によっては、保護者と生徒が実際の対話を体験することができる題材である。あらかじめ計画的にグループを決められれば、よりリアルな学び合い活動を展開することも可能である。



11 今後の課題

- ◆アンケート等の資料を学年で揃え、2クラスが同じ歩調で進められるような工夫をする。
- ◆今回の授業は「特活」に組み入れ、事前に授業者へも内容説明と資料説明を行ったが、今まで扱ったことのない分野であるため指導のポイントや流れをつかむことが難しい。
- ◆道徳にならないような指導をこころがけ、生徒自身が考え、気づききっかけを作る授業の展開を考えるのは、なかなか難しい。
- ◆プログラムに対する担任の考えや取組の足並みを揃えるために、事前の説明をもう少し密に行う。
- ◆「親の学習」プログラム集をどのようにして校内で活用してもらえるようにしていくかが課題である。

実践例 4**中学校のPTA活動「地区懇談会」**

所沢市立小手指中学校PTA 鳥居 八千代

1 ねらい 多くの参加者が期待できる地区懇談会に「親の学習」プログラムを導入し、家庭教育の支援を図る。

2 実施主体 PTA校外補導部

3 対象者 中学生を持つ保護者

4 実施日会場 7月（別記：表1）

5 活用したプログラム 5-①

「大人でもない子どもでもない」（全支部統一）

**6 目標**

大人への階段を一步一步上がっていくこの思春期と呼ばれる時期の特徴を把握し、子どもの段階を踏まえた向き合い方について学習する。

7 展開する上での工夫・配慮

(1) 午後7時～9時頃の時間に設定した。（仕事を持つ保護者の参加を期待する。）

(2) 土曜日にも実施した。（多くの父親の参加が可能になるように）

(3) 開催場所は、各支部の保護者の自宅に近い公民館や集会所等を利用した。

支部 役員数	日 時 場 所	指導者	保護者参加人数（グループ数） （教員参加数）
5支部 役員10名	7月14日（火）午後7時～9時 八区集会所	さわやか 相談員	49名（11G） （教員 6名）
2支部 役員4名	7月18日（土）午後7時～9時 小手指公民館・分館（和室）	校長	22名（男性1名） （3G）（教員 3名）
3支部 役員7名	7月22日（水）午後7時～9時 椿峰コミュニティー（和室）	さわやか 相談員	35名（8G） （教員 6名）
1支部 役員4名	7月23日（木）午後7時～9時 上新井会館（和室）	教頭	18名（3G） （教員 6名）
4支部 役員6名	7月23日（木）午後7時～9時 小手指公民館・本館（和室）	さわやか 相談員	20名（4G） （教員 4名）
6支部 役員5名	7月25日（土）午後7時～9時 小手指公民館・分館（和室）	さわやか 相談員	21名（4G） （教員 6名）
7支部 役員8名	7月29日（水）午後6時30分 ～9時新所沢コミュニティー	さわやか 相談員	30名（男性1名） （6G）（教員 6名）
全7支部	7会場	指導者3名	参加保護者195名

（表1）

- (4) 60分で「親の学習」を取り入れた。
- (5) 「アイスブレイクの時間を短縮した。

当日の流れ

- 18:00 役員集合・準備
- 18:45 受付
- 19:00 開会
- 19:20 **親の学習**
- 20:20 アンケート記入
- 20:30 学年ごと懇談
- 20:55 閉会

準備
 名簿、名札、資料（ワーク、アンケート）、テーブル、ホワイトボード、筆記用具

「地区懇談会」開催案内通知

夏休み「地区懇談会」開催のお知らせ

盛夏の候、保護者の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。さて、本年度も、校外指導部の事業の一環として、下記内容で夏休み「地区懇談会」を開催いたします。ご多忙とは存じますが、子供たちの夏休みがより有意義に過ごせるよう、保護者皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

記

「地区懇談会」については、子供教育は、家庭・地域・学校が互いの役割を担うことにより、健全な育成があるものと思っております。しかし残念ながら、子供たちの休日や学校内外での事件・事故等のニュースが後を絶ちません。そして、保護者自身がどのように考えさせられる場面も少なくありません。本年度も先ず、「学校での子供たちの様子」「家庭での様子」「子供の学習について」をテーマに、

「親の学習」について

No.	開催日時	開催場所	PTA本部
1	7月10日(日)	中学校生活全寮	
2	7月11日(月)	恵寿院の心	
3	7月12日(火)	中学校生活全寮	
4	7月13日(水)	恵寿院の心	
5	7月14日(木)	中学校生活全寮	
6	7月15日(金)	恵寿院の心	
7	7月16日(土)	中学校生活全寮	

- (6) 支部の役員を運営委員とし、主体的に取り組ませた。(各支部独自でチラシを作成し、1軒1軒回り、配布した。) また、電話連絡網を活用した。
- (7) 地区懇談会の案内通知に学習テーマを入れた。(図1)
- (8) 事前に「親の学習」の研究会を本部役員と各支部・副支部長で開いた。
- (9) 指導者を学校職員とし、「親の学習」が和やかな雰囲気中で、できるよう企画した。
- (10) 開会のあいさつの中に「親の学習」についての説明を入れてもらった。



図1

8 参加者の感想と様子（実施後のアンケートより）

- 参加した人は、また今日のような学習会に参加したいと思う。(図2)
- 先輩お母さんからの経験話などを聞くことができ、教員には学校での様子を詳しく聞くこともでき、多くの情報を得ることが出来たという感想があった。

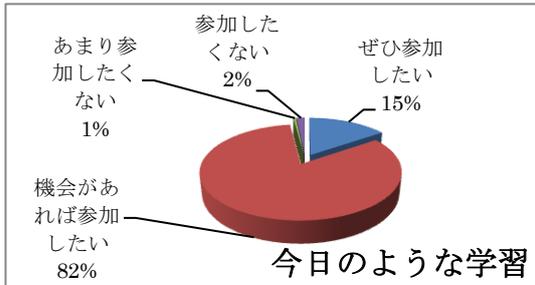


図2

- 学習会を通して子育てや子どもとの接し方などを「振り返る」ことができていた。(図3)
- 「グループでの話し合い」を取り入れた学習は、気軽に話すことができ、また、他の家庭の色々な話を聞くこともでき、参考になっていた。(図4)
- 子育てを考える良い機会であった。保護者は、同じような悩みを持っている人がいることが分かり、一人で悩むことはないと思えることができたという感想があった。

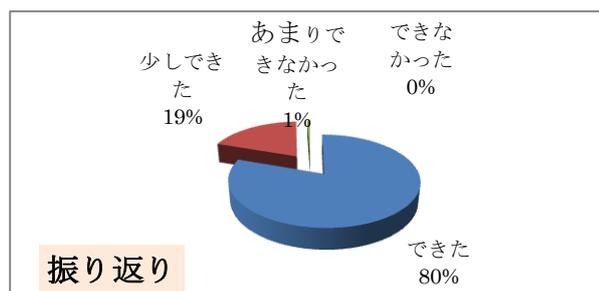
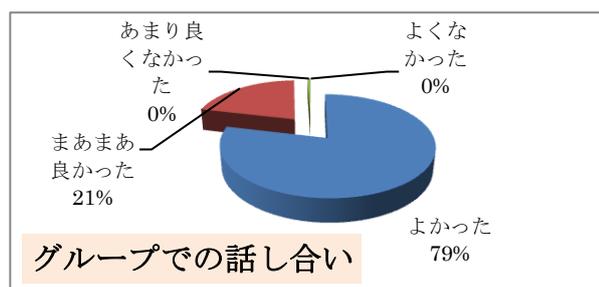


図 3



(参加者195人中188人回収、当日回収)

図 4

9 成果

- 保護者が参加しやすい条件の下での地区懇談会では、多くの参加者が集まり効果的である。
- 地区懇談会に60分で「親の学習」プログラムを取り入れるために、アイスブレイクを短縮したが、違和感もなく実施できた。
- 役員と参加者は、既存の事業に「親の学習」を取り入れることを理解しての参加のため、進行が円滑で学びが深かった。
- 役員の自主運営にしたことにより、独自の案内チラシ作成や足を運んでのチラシ配布により参加者が増加した。
- 指導者を本学校職員とした為、和やかな雰囲気の中で、活発な意見交換ができた。
- 活用したプログラムが、この時期の中学生を持つ保護者のニーズに合っていた。
- 全支部プログラムを統一したことにより、前例を参考にスムーズな運営ができた。また、メンバーの違いによる雰囲気の相違と指導者の違いによる学びの質の違いを感じることができた。

10 今後の課題

- ◆準備に余裕が持てるよう日程を早期に決定する。
- ◆7回分の指導者の日程調整が難しい。
- ◆テーマを考えると、実態や状況に即したものを選定する。
- ◆父親の参加や参加しない保護者への働きかけを検討する必要がある。
- ◆学習指導者にかかる費用の助成が必要である。



実践例 5

中学校のPTA活動「給食試食会」

深谷市立川本中学校PTA 松村佐和子

- 1 **ねらい** 既存の給食試食会に「親の学習」プログラムを導入し、家庭教育支援を図る。
- 2 **実施主体** PTA保健給食部
- 3 **対象者** 中学生を持つ保護者
- 4 **実施日** 平成21年6月6日(土)
- 5 **会場** 川本中学校調理室
- 6 **展開形式** 給食試食会
- 7 **指導者** 県が養成した指導者2名
- 8 **活用したプログラム** 4-②
「子どもが元気になる生活リズムとは？」

- 9 **目標** 家庭での食事を見直す

10 展開する上での工夫・配慮

- (1) 既存の給食試食会を、「給食試食会」と「学習会」の2部構成にした。

○ 当日の流れ

- 10時30分 役員集合・準備
- 11時15分 受付
- 11時30分 開会
- 11時50分

一 部 **学習会**

- 12時40分

二 部「給食試食会」

- アンケート記入
- 13時30分 閉会
- 14時00分 役員解散



当日のプログラム

事前の準備

- ・講師依頼
- ・案内文書作成
- ・会場確保(予約)
- ・指導者との連絡調整
- ・資料・ワークシート作成
- ・アンケート作成
- ・参加者確認 ・会場設営
- ・筆記用具湯茶等の準備



指導者

(2) 「親の学習」の文言を使用せず、「中学生の食育について」の情報交換とした (図1)

(3) 「学習会」の時間を50分で設定した。 (図1)

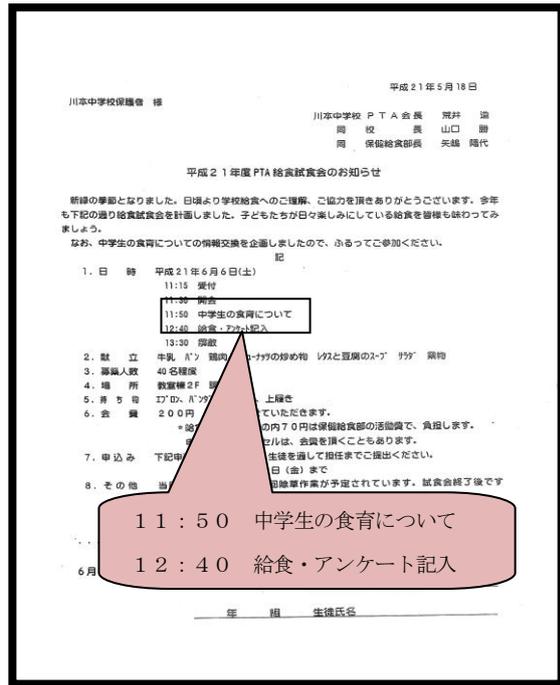


図1

(4) ファシリテーターには「親の学習手引き集」を中学校保護者の実情にそった資料を作成し展開をアレンジしてもらった。(下図)(参照:資料編P12・13)

川中中学

「学習会」で使用したプログラムを工夫した資料

1 はじめに

2 全国学力・学習状況調査から

●朝食を毎日食べる児童生徒の割合

【小学校】*質問1: 朝食を毎日食べていますか

学年	人数	割合
1年	79.0	77.7
2年	88.3	84.0
3年	15.3	44.0

【中学校】*質問1: 朝食を毎日食べていますか

学年	人数	割合
1年	16.1	8.3
2年	11.0	4.3
3年	11.0	4.3

●朝食を毎日食べる児童生徒の割合

【小学校】*質問1: 朝食を毎日食べていますか

学年	人数	割合
1年	82.0	88.9
2年	84.0	84.0
3年	44.0	44.0

【中学校】*質問1: 朝食を毎日食べていますか

学年	人数	割合
1年	83.5	72.0
2年	74.5	71.5
3年	57.1	57.1

お腹がすいた時どうするか

簡単朝食メニュー

正答率が高い傾向(TV・DVD・ラジオ・テレビゲームをする時間が短い)

全国と県の比較(朝食、夕食の摂取率)

(5) 題材として既存の事業(給食試食会)に関連し、県のアンケート調査結果をもとに親が参加してみたいプログラムを選択し、活用した。

- (6) 土曜日に開催した。(多くの方が参加できるように)
- (7) PTA 専門部員と本部役員、担当教員に「親の学習」について説明し、理解を得た。

11 参加者の様子と感想（実施直後のアンケートより）

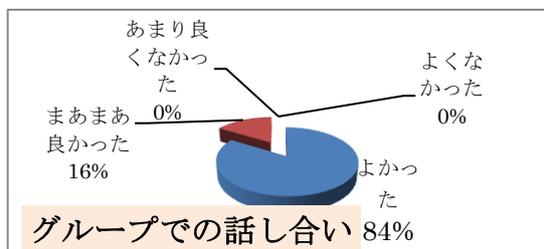


図 4

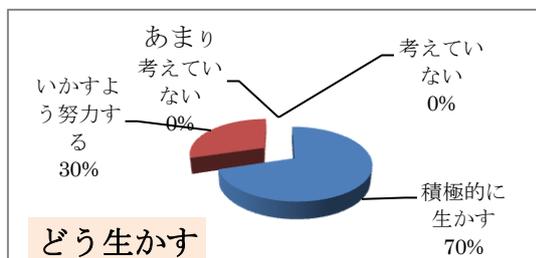


図 5

- 終了後、参加者の一人が「本当に今日は楽しかった。講演を聴くのは苦手だけれど自分の意見も言えたり、他人の話も色々聞けてよかった。」と声をかけてきた。アンケートから同様の意見が多数あった。
- 自分と同じように子どもの気持ちの汲み取り方で悩み、不安を感じている人と話し合いができたことで気持ちが楽になった。参考になる話を聞けたという感想が多くあった。
- 講師の歩的な話を聞くだけでなく、参加者の意見交換ができ、参考になったし、楽しかったなど好評であった。
- たくさんの方々が自分の思いを語り合う和やかな雰囲気での学習会であった。
- 保護者は「グループでの話し合い」形式の学習に、全員が好感を持った。(図4)
- 活用したプログラムと資料（ファシリテーターが工夫し改良）が、給食試食会参加者のニーズや実態に即していたので、保護者の実情にあった学習となり、学んだことを積極的に生かしていこうという思いにつながった。(図5)

12 成果

- 給食試食会に組込むことは、新しく事業を立ち上げるよりも実施者の負担感が少ない。
- 二部構成で、試食の前に学習会として「親の学習」プログラムを50分で行っても違和感もなく実施できた。
- 土曜開催の直後に除草作業が予定されていたので、給食の試食が昼食を兼ねることとなり、参加者数が昨年度の2倍となった。
- 教職員と PTA 組織の理解と協力により、スムーズに運営できた。

13 今後の課題

- ◆既存の事業を活用するにしても、教職員と保護者に「親の学習」と「親の学習」プログラムの理解が必要である。
- ◆ファシリテーターの依頼・手引き集活用の具体的マニュアルがあると便利である。



実践例 6

小・中学校の合同PTA活動「食育講演会」及び「親の学習」 深谷市立川本中学校PTA 松村佐和子

- 1 **ねらい** 既存の講演会に「親の学習」プログラムを導入し、小・中学校合同で家庭教育の支援を図る。
- 2 **実施主体** PTA保健給食部
- 3 **対象者** 小学生・中学生を持つ保護者
- 4 **実施日** 平成21年10月14日（水）
- 5 **会場** 川本北小学校 多目的室
- 6 **指導者** 県が養成した指導者2名
- 7 **展開形式** 家庭教育学級
- 8 **活用したプログラム** 4—②
「子どもが元気になる生活リズムとは？」
- 9 **目標** 家庭での食事を見直す
- 10 **展開する上での工夫・配慮**



指導者2名

- (1) 小中PTA合同開催で異校種交流の場を設定し、子育ては悩み・不安の中で行っているものと共通理解できるような場とした。
- (2) 既存の給食試食会を、「給食試食会」と「学習会」の2部構成にした。
- (3) 「親の学習」の時間を50分と設定し、長時間でないことを示した。

○ 当日の流れ

- 12時00分 役員集合・準備
- 12時30分 受付
- 13時00分 開会
 - 一部 「食育講演会」
- 14時45分
 - 二部 「親の学習」
- 15時35分 アンケート記入
- 15時40分 閉会
- 14時00分 後片づけ・役員解散

事前の準備

- ・講師依頼
- ・案内文書作成
- ・会場確保（予約）
- ・指導者との連絡調整
- ・資料・ワークシート作成
- ・アンケート作成
- ・参加者確認 ・会場設営
- ・筆記用具湯茶等の準備



食育講演会



親の学習： グループで話し合い

(4) 既存の PTA 事業を生かす。題材として既存の事業に関連し、アンケート調査結果をもとに親が参加してみたいプログラムを利用する

保護者への案内通知
(参照：資料編 P 1 4)

第2部
親の学習「子どもが元気になる生活リズムとは？」

テレビを見ながら食事する割合(よく、時々あるの合計)
小学生 78.5%、中学生 84.6%、高校生 87.3%
(参照：資料編 P 1 4)

資料 2
肥満傾向児の割合
各学年で S 5 7 と H 4 と H 1 5 で比較

(5) 実施者となる PTA 専門部や PTA 本部役員に「親の学習」について説明、理解を得る。
(6) 開催にあたっては参加者を増やすための声かけおよび動員を行う。

11 参加者の様子と感想

- グループでの話し合いを取り入れた学習は「『今さら聞けないよ』と思っていたことをみんなで気楽に話し合えて、楽しく参加できた」という声が多くあった。
- 小・中学校の共同開催というところから出てきた感想では「うちは子どもがまだ小さいが大きいお子さんのいる家庭の話が聞けてよかった」という感想もあった。
- 「親の学習は50分もあって大変だと思っていたがやってみると時間が足りなくてもっと話したかった」という方もあった。和やかな雰囲気であった。
- 親の学習を体験した保護者はグループでの話し合い形式の学習に対し、「よかった、まあまあよかった」というアンケート回答が100%であった。(図1)



親の学習：グループでの話し合い

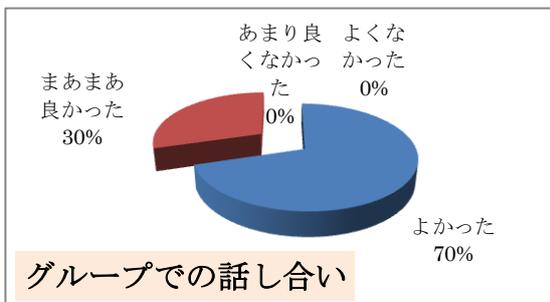


図1

○講座を受けることで「子育てや子どもとの接し方などを振り返ることができた」との回答は90%あり、講演会と「親の学習」のセット学習は成果があった。

○終了後の「学習を振り返って」のアンケートから、時間が足りないくらいだったという感想もあった。

○PTA 役員が「親の学習」の必要性を受け止め、開催にあたり非常に協力的であった。また、普段 PTA 事業に参加しない保護者も役員の勧めで参加協力をし、結果「参加してよかった」という感想が生まれていた。

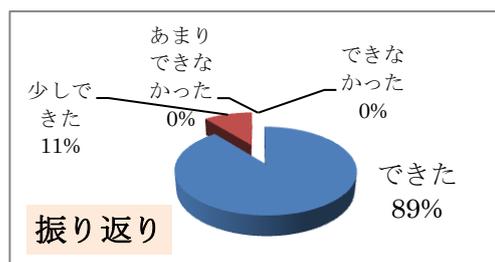


図 2

12 成果

○既存の事業に組み込むことは新しい企画を立ち上げるより実施者の負担感が少ない。

○従来の家庭教育学級の2倍の参加者となり、内容も充実したものになった。

○小学校 PTA 担当の先生及び役員が中学校からの申し入れにもかかわらず非常に協力的であった。

○PTA 既存事業を生かすことは「親の学習」を導入しやすいことがわかった。

○「親の学習」はファシリテーターの指導力が鍵を握る。

○小・中学校合同で行うと、中学校の保護者から子育ての先輩としての意見が多く出されるので、小学校の保護者は今真剣に行っている子育てのアドバイスとして聞くことができ、中学校の保護者は自分を振り返るよい機会となる。



13 今後の課題

◆既存の事業を一部日程、内容を変更した。小学生の親の事情と中学生の親に事情が異なり開催時間や開催曜日など調整が必要である。

◆土曜開催をする場合は小学生を持つ親を対象とする場合は一時託児の配慮も必要となる。

◆共同開催にあたり検証事業の実施依頼が管理職の先生を通して必要である。管理職の先生の企画段階からの理解がないと実施役員は相当苦勞する（経過説明資料・依頼文作成・事前会議の設定、連絡、調整・会議資料の作成など）。

◆「ファシリテーターの依頼・手引き集をどう活用するか」の相談など「親の学習」実施の具体的なマニュアルがあるとよい

◆全教職員・PTA 役員が「親の学習」を1回でも体験すれば「親の学習」は広がるだろう。



実践例 7**公民館「家庭教育学級」**

越谷市NPO法人子育てサポーター・チャオ 近澤恵美子

- 1 ねらい** 公民館家庭教育学級5回コースの中に1回「親の学習」プログラムを導入し、家庭教育の支援を図る
- 2 実施主体** 越谷市公民館12か所
- 3 対象者** 2・3歳児を持つ親
- 4 時間** 10時から12時
- 5 指導者** 県が養成した指導者
- 6 展開する上での工夫・配慮**



- (1) 越谷市12か所中8か所の公民館で実施した。
- (2) 託児室を設け保育者をつけた。

月/日	曜	会 場	プログラム番号 「タイトル」	参加者 数	保育 者数	回目
5/27	水	新方公民館	3-④ 「こんなときどうする」	18	5	2
6/3	水	出羽公民館	3-④ 「こんなときどうする」	15	5	3
6/9	火	越谷公民館	3-④ 「こんなときどうする」	14	5	4
6/12	金	増林公民館	3-⑤ 「ステップ・バイ・ステップ」	18	5	2
10/15	木	大沢公民館	2-③ 「今、身につけておきたいこと」	19	5	3
10/21	水	出羽公民館	3-② 「こどもと一緒に生活習慣をつくろう」 「健やかな育ちのためにできること」	15	5	3
10/27	火	蒲生公民館	3-② 「こどもと一緒に生活習慣をつくろう」	16	5	3
11/18	水	新方公民館	3-② 「元気な子供を育てるために」	19	5	2
11/27	金	草加体育館 会議室	3-④ 「こんなときどうする」	8	3	1

※11/27は草加市の母親グループの要請による。1回の講座である。

(3) 指導者5名でミーティングをもち、「親の学習」のネーミングを工夫し、内容を工夫し、多様な資料を作った。

親の学習 「こんなときどうする？」		
自己紹介、親の学習の目的 (日ごろの子育てを振り返ってもらい、子育てのヒント)		10:00
1. グループ決め	10分	10:05
・子どもの誕生日順に話さないで一列にならんでもらう。(あっているかな?)		
・その順に4, 5名ずつのグループに分かれてもらう。		
2. 各グループのなかで自己紹介	10分	10:15
・子どものころ好きだったあそび		
・グループの名前(秋の食べ物)		
発表者をきめる (番号を決める)		
3. 話し合い	15分	10:25
A. 日ごろの子育てで大切にしている、気をつけている生活習慣は?		
4. 各グループで出たことを発表	10分	10:40
5. 話し合い		10:50
B. 生活リズムを考えて工夫していること、困っていること ③20分		
6. 各グループごとに出たことを発表	10分	11:10
7. まとめ	10分	11:20

平成21年10月21日 出羽公民館 家庭教育学級 担当:中本 美智子

【脳科学の視点で考える】…脳科学の視点で考える

脳科学の視点で考える

脳のヒ・ミ・ツ〇×クイズ *気軽に考えてね*

問1 子どものあちゃんの脳はまだ働いていない

問2 脳の成長は早い

問3 かけ足が速いと

問4 子どもの脳が完

問5 機能する) 年齢

問6 脳に男女の差は

問7 現在、10%の

わが家の一

我が家の一

平成21年10月21日

1. 朝、起きる時間は何時? 2. 朝ごはんの時間は?

OKK ⇒ OKK ⇒

〇ママ ⇒ 〇ママ ⇒

二人組でロールプレイ
親役、子役に分かれて

朝ごはんの時間

11:15 二人組になって、ロールプレイ
場面を考えて、親役、子ども役にわかれて、演じる

30 全体シェア

40 ふりかえり

子どものころ好きだった遊び

(参照: 資料編P15)

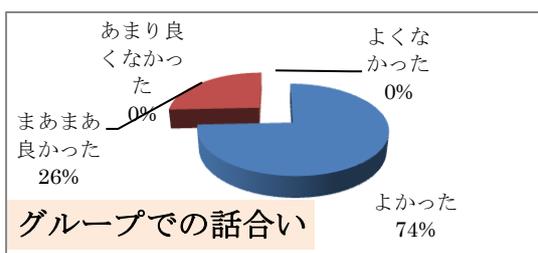


図 1

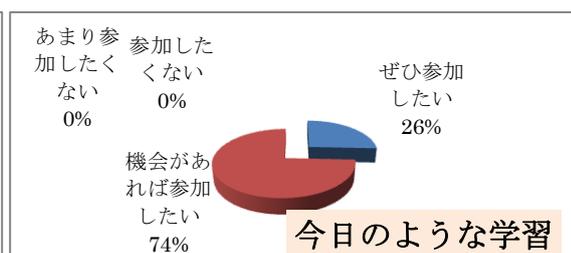


図 2

7 参加者の感想

- 「グループでの話合い」形式と「今日のような学習に参加したいか」に対して、全員が「良かった」・「まあまあ良かった」、「ぜひ参加したい」・「機会があれば参加したい」と答え、このような「親の学習」プログラムを導入した講座に、好感を持っていた。
- 子どもにとってもいい経験になっていると思う。参加してよかった。
- 以前も同じ内容の学級に参加したが、メンバーや子どもの年によって意見が違うので前回と比べることができて楽しかった。
- 来年年少で幼稚園にいれるのですが、みんな不安に思っていることがわかった。
- 今日がうまれてはじめての親子わかれての教室だったので、娘に会うのが楽しみです。
- いろいろな家族でのルールや悩みがきけて、自分だけではないんだとほっとしました。また、アイデアももらえたので自分でやって生きてしたいと思います。また、このような機会があれば、ぜひ参加して、意見を聞きたいと思いました。

8 成果

- 保育をすれば、取り入れやすく有効であり、親子が別々に学ぶ機会ともなる。
- 参加者のなかには、いろいろな公民館の講座をかけもちしている人もいるが、親の学習プログラムは、同じテーマで繰り返し講座をうけても、参加者が満足できる講座である。
- 5回コースの中に、親の学習プログラムをとりいれると、参加者同士が悩みを共有しあい仲良くなるので、その後の講座が充実する。親同士の連帯感がうまれるので連続する講座等では早い実施回が有効である。

9 今後の課題

- ◆乳幼児の場合は、保育をつけて行なうことになるので、1回の人数は多くせず、回数をたくさん行なうのがよい。人数が多くなると、グループごとのシェアの時間が長くなる。保育人数が多いと、保育士の人数をふやしても、子どもが落ち着かなくなる。
- ◆託児における予算の確保が必要である。
- ◆公民館の家庭教育学級内でおこなうと、比較的教育力の高い親が参加することになる。しかし、もっと広い層に参加してもらうためには、小学校の就学時健診などのような、全員参加するようなところでやるのが効果的である。
- ◆乳幼児の親対象の場合、父親にも参加できるように、土日開催で両親参加という形式を考えると良い。その場合、親の学習プログラムというより、親子で楽しめるようなプログラムの中に、親の学習プログラムを入れるといった工夫が必要である。

実践例 8

公民館「赤ちゃんひろばの特別講座」

三郷市立北公民館 室伏 延人

- 1 **ねらい** 赤ちゃん広場の特別講座に「親の学習」プログラムを導入し、家庭教育の支援を図る。
- 2 **実施主体** 三郷市立北公民館
- 3 **対象者** 3か月～1歳6か月の子を持つ親
- 4 **実施日** 平成21年11月4日(水)
- 5 **時間** 10時15分から11時30分
- 6 **会場** 公民館会議室・和室
- 7 **活用したプログラム** 3-⑤
「ステップ・バイ・ステップ」
- 8 **指導者** 県が養成した指導者
- 9 **展開する上での工夫・配慮**



「親の学習」：グループで

- (1) 託児用の部屋を1つ用意した。(図1)
- (2) 託児の協力を民生児童委員等に3か月前に依頼した。
- (3) 赤ちゃんひろばの一環で取り組めるように工夫し、赤ちゃんひろば1か月前に参加している保護者にチラシを配布し、内容を説明して参加を促した。
- (4) 案内チラシを公共施設に掲示した。
- (5) 役割分担
 - ・ 進行総括を公民館職員
 - ・ 受付と託児を民生・児童委員



図1 託児室：民生委員さんと

託児あり

三郷市青少年育成市民会議「子育て応援事業」

『赤ちゃんひろば』特別講座

親として、もう一歩成長するために…

おさんは一人目ですか？
毎日の子育てを楽しんでいますか？
気持ちに余裕をもって、赤ちゃんを見つめることができますか？
少し辛い気持ちには、なっていませんか？…

ファシリテーター(学習支援者)による体験型の学習です。笑いあり、涙あり
そして、いろいろな気づきに出会えることでしょう☆

記

1. 日 程 11月4日(水) 赤ちゃんひろば
午前10時15分～11時30分
2. 場 所 北公民館 一階和室に集合ください
3. 内 容
 - ・ 民生児童委員の皆さんが、おさんの託児をします。
 - ・ 少しの間だけおさんと離れ、肩の力を抜いて「ホンネ」で語り、考え、体験する『親の学習』プログラムです。
 - ・ 事前の申込は必要ありませんので、時間までにご集合ください。

問い合わせ先

- 北公民館 担当 室伏(むろふし)
電話 957-0253
- 北児童館 担当 菊川(きくかわ)
電話 957-2100



10 保護者の様子と感想

- 親は、子どもと別れ、集中して取り組むことができていた。
- 実施後のアンケートより、
 - ・参加型の学習スタイルに対しての抵抗感が少なく、積極的な参加の様子であった。
- 8割以上の親たちが子育てに何らかの悩みがある(学習をする前のアンケート)

学習をする前に…17件回答

- 1 今日の学習を受けるにあたっての自分の気持ちはどうですか？
 - ア 参加しなくなかった …1
 - イ あまり参加しなくなかった …1
 - ウ 参加したかった …9
 - エ ぜひ参加したかった …6

※今日あることを知らなかった…1
- 2 ふだんの生活の中で子育てや子どもとの接し方などについて悩みはありますか？
 - ア いつも悩んでばかり…1
 - イ ときどき悩んでしまう…13
 - ウ あまり悩むことはない…3
 - エ 悩むことはない

事後アンケート (11月4日実施 19人回収)

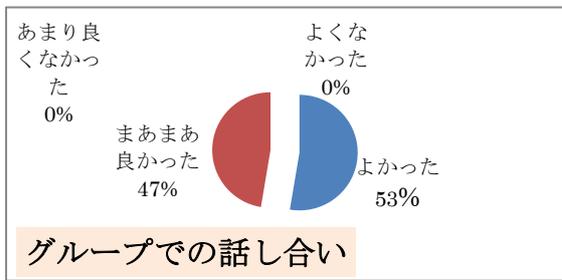


図 2

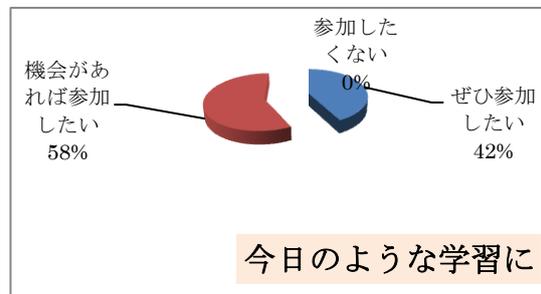


図 3

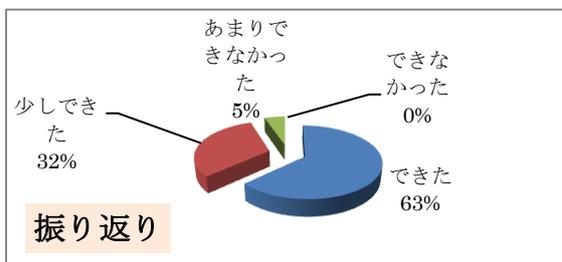


図 4

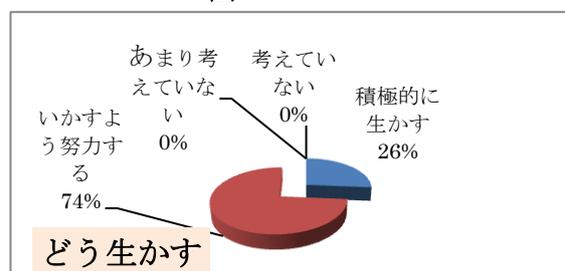


図 5

- 実施前と実施後にアンケートを行った。実施前のアンケートから、事前の周知から、ほとんどの親が希望して参加している。実施後のアンケートからでは、グループでの学習方法について、全員が「よかった」「まあまあよかった」という結果になり、参加型の学習スタイルに対しての抵抗感が少なく、積極的な参加の様子が伺える。他の設問から、また参加したいか・子育ての振り返りについて・今日の内容を生かしていくかといった設問に対して、概ね良い結果が生まれている。話しをしたり聞いたりといったことは、特に女性にとって、様々な気づきや発見、さらに、ストレスの発散の場になっていると感じられる。



【次の内容はアンケートの自由欄から原文のまま紹介】

- 同じ班の2人目のママさんの経験が聞けたことが参考になった。
- 子どもと家にいることが多いので色々な月齢の方とお話が聞けてすごく良かったです。
- 絵本『しゅくだい』が良かった。いろいろな話が出来て良かった。
- 自分が子育てで悩んでいる事は、他の皆さんも同じ様に悩んでいるんだなと思って少し安心しました。と同時に、色々なアドバイスやアイデアが聞けて良かった。
- 他のお母さんと子育てのことなどお話しできて嬉しかった。リフレッシュできた。
- うちの子だけなのかな？と思っていた事とかが他の子もそうなんだ！と思えた事とかあって気持ちが少し楽になった。他人に預けるのは無理だと思っていたのに1時間平気だった事にびっくり！！

時々笑顔が見られるように、非常に良い雰囲気の中、親同士が気づいたり発見したり感動したりといった様子が見られた。子供がどんな風に思っているかが、少し気づけたようである。



11 成果

- この『親の学習』プログラムを公民館等の社会教育施設で実施していくには、既存のひろば等の事業と施設、地域の協力者を活用としたものとして計画していくと良い。
- 託児室を設けることにより、赤ちゃんひろばに参加しているほとんどの親が参加した。
- 「親の学習」プログラムに既存の事業と施設、地域の協力者を活用できる。
- 参加体験型学習は、自分の意思や意見を踏まえた気づきや発見の場となった。
- 参加体験型の学習では、講演会等による一方通行的な意思の伝達ではなく、自分の意思や意見を踏まえた気づきや発見の場である。そのため共感や感動を生みだし、現代的な孤立した子育てにとって、必要な学習方法である。

12 今後の課題

- ◆託児の協力者を、どのように確保していけばよいか。通常の赤ちゃんひろばの協力者以上の協力がなければ、託児ができない。学習の効果を考えると、乳幼児と親が一緒では、親の感心が子のほうにいきまわってしまい、集中できない。また、預けて始終泣いてしまう子に対しても、どのようにして対処すればよいかを事前に決めておくことも必要である
- ◆親の立場に立った運営と心配り、具体的な人的・物的な整備、職員の熱意が必要である。
- ◆このような場に出てこない、人との関わりを持ちたくないとする親をどのようにして参加を募っていくか。
- ◆自由参加が前提でなく、〇ヶ月検診といった参加原則のあるところで実施をし、そのような人たちにも、同じような共感と気づきなどを生み出すことができるかを検証していくことも必要である。



【三郷市での特徴的な取り組みの紹介】

三郷市では、三郷市青少年育成市民会議・青少年課・生涯学習課の協力により「親の学習」の普及啓発に努めています。

三郷市青少年育成市民会議

青少年の健全な育成をめざす市民運動の推進母体として、三郷市PTA連合会を含む40もの青少年関連団体と個人会員等で構成されている組織です。その活動のひとつで「子育て応援事業」として会員等の市民が実行委員として関わり、小中学校への普及啓発等に努めています。予算面から、また、スタッフ面といった「親の学習」に対して強力な推進力になっています。今年度は、市内小中20校全校にて実施していく予定です。

青少年課

教育委員会生涯学習部に所属しています。学校関係の受付窓口になっています。主に専門指導員が、学校とのパイプ役となり、各学校へ出向き普及啓発に努めています。専門指導員は、市教育委員会に所属し、数年後の異動で学校現場に戻ります。現役の教職員ですので、学校現場の状況が分ります。また、市民会議の事務局として、内部的な調整も兼ねています。このように学社連携の重要な役割を果たしています。

生涯学習課

教育委員会生涯学習部に所属しています。主に乳幼児関係に対する窓口になっています。市内保育所や幼稚園の普及啓発に努め、保育所長会議や幼稚園等を実施のお願いに回っています。市PTA連合会事務局が所属しており、会長会で「親の学習」を実施してしました。北公民館は、この生涯学習課に所属しており、「親の学習」の実践の場として活動しています。

その他、特徴的な内容として、ファシリテーター同士が顔合わせの機会を多くもち、企画・調整会議で旨く割り振りをしています。昨年度のファシリテーターが中心となって、初めて体験する人のフォローに回ったりしております。平成21年度のファシリテーターの内訳は、社会教育委員長・元PTA会長が多数でその中に元市P連会長で市議会議員・中学校区地域青少年育成会長・元学校評議委員、現役のPTA会長等です。男性が10人中4人いまして、その中でも、子育て中のお父さんは3人います。その男性ファシリテーターの一人が、企画会議の中で、自分は男性だから女性の気持ちや立場など分らないので、正直に参加している人に聞いて、会場の中で解決していこうと言っていました。つまり、気づきをフィードバックして気づかせるという「親の学習」の方法なので、男性であっても、十分取り組めるものです。もっと沢山の男性ファシリテーターが、今後増えてくれば、父性と母性といった視点の違うものに取り組めるものだと考えられます。

さらに、県内でも取組の例がまだないものとして、小学校の親子が参加する学年行事で行ったものがあります。体育館を使用し親が子の役を演じ、その逆も体験します。親には子どもの経験はありますが、子どもにはありません。そのような視点などから、親が子どもの目線でしゃがみこみながら、子どもが親役で手をつなぎ散歩を体験するといったプログラム集には無いものも取り入れたりしています。そのときの感想からは、

「自分が話をするとき、うなずいて聞いてくれる人の大切さを感じました。」

「話をしているのに、相手が反応してくれないとさびしいと思いました。」

「普段は、何かしながら子どもの話を聞いていたなと反省しました。」

「子どもの目線になることで、気づかないことに気づけた。」

「お母さんに手をつないでもらうことで、とても安心感がありました。」

「親役をした時、お母さんは大変なんだと感じました。」

子供たちは目と目を合わせたコミュニケーションの大切さ、相手の立場になって考えることの大切さに気づかされたようでした。

最後に、三郷市では「親の学習」プログラムに対して関心と理解、そして大きな期待をいただいています。実際に目で見て感じて、親たちの表情が始まる時と終るときのものでは、全然違うものになっています。それに、目の輝きが違います。アンケートの事前と事後の比較によっても、それは明らかです。教育長からは、ファシリテーターの人たちに、温かい言葉かけと市あげての期待を伝えております。この「親の学習」でひとつのまちおこしができるのではないかと、感じている次第です。

【文責 三郷市立北公民館主任社会教育主事 室伏延人（「親の学習」プログラムによる家庭教育支援の進め方調査研究委員）】

Ⅶ まとめ

本調査研究では、家庭教育支援のため、「親の学習」プログラムを効果的に導入する方法を研究してきた。参加者のニーズや実態を把握し、学校の教育課程・PTA活動、公民館の家庭教育学級等で実践した。

県では「親の学習」プログラムの普及啓発に努力しているが、教員・保護者には、名称を知る程度でとどまり、内容及び活用方法の理解までには、いたっていないようである。

実施後のアンケート（回収数307）によると

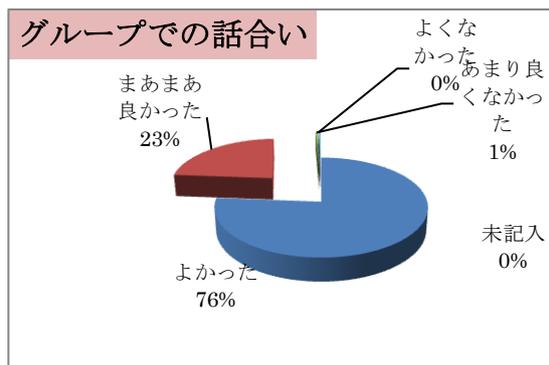


図 1

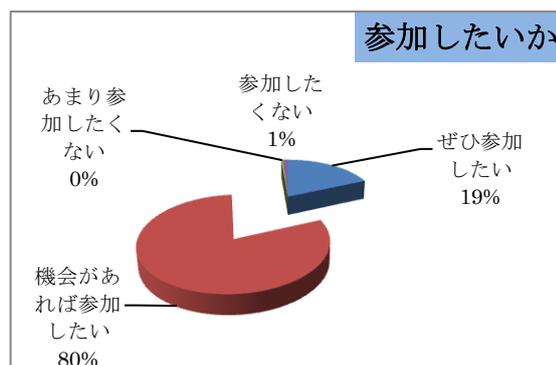


図 2

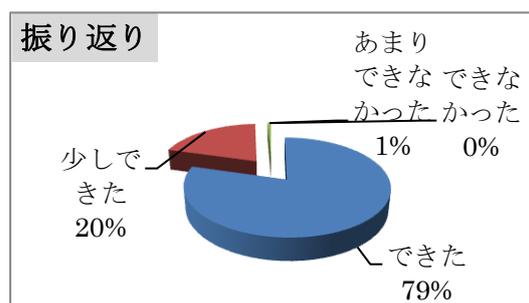


図 3

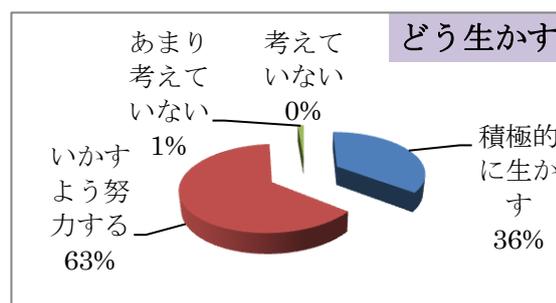


図 4

グループでの話し合い（図 1）について、「良かった」と「まあまあ良かった」を合計すると 99%、今日のような学習会に参加したいか（図 2）については、99%の人が「ぜひ参加したい」または「機会があれば参加したい」と答えている。「振り返り」と「どう生かす」についても、99%の方が家庭教育を少しは振り返りができ、今後の生活に生かすよう努力すると答え、参加したかたの家庭教育支援が図られたことを示している。改めて「親の学習」プログラムの効果を確認することでき、導入することが有効であることがわかる。教員も保護者も一度体験してみることで、良さと内容及び活用法の理解が深まり、「親の学習」プログラムの推進が図られる。「親の学習」の推進が図られることは、家庭教育支援が図られことにつながる。

また、このプログラムの効果的活用により、学校・家庭・地域が一体となった家庭教育支援が推進され、新たな地域づくりにも貢献できると確信する。

学校

幼い子と遊んだ経験がない中学生が1割、かわいいと思わない中学生が2割弱もいることが分かり、将来、親になる中学生・高校生に「親になるための学習」は重要なものであり、そのための支援が必要である。

中学校の家庭分野「幼児とのふれあい」は、効果的であり、総合的な学習の時間や特別活動でも実施可能である。授業参観での「家族って何だろう？」は親子の学びにもつながり、親子の相互理解を図ることができる。そこで、年指導計画を見直し「親の学習」プログラムの活用を計画的に推進する。

学校では校内研修等でこのプログラムを取り上げ、実施し、教員に実践方法等の理解を図り、このプログラムの資料とワークを活用し、「手引き」の展開例を参考に、授業や懇談会等で実践してみる。

P T A 活動

小中学生を持つ保護者の88%が、子育てに反省することがあると答えている。その訳を、親としての心構え、知識のなさ等をあげ、学ぶ機会や子育ての情報等を必要としている。「親の学習」実施後の感想に、『「今更、恥ずかしくて聞けない」と思っていたが、気軽に聞くことができ、勉強になった。』と書いてある。

P T A役員会等で「親の学習」プログラムを体験し、理解してもらうことが大切である。既存の行事に組み入れているとき、その行事の趣旨や参加者のニーズ・実態に合ったプログラムを選び、60分の時間にとらわれず、教員とともに緒条件を整備し、できる範囲で行ってみることである。教員は企画の段階から参加し、子どもたちの学校の様子等の情報提供を行うなど協力体制を整える。

公民館・地域・関係機関との連携、環境・条件整備

行政、公民館、保健センター、保育園・幼稚園、子育て団体等地域の各機関と連携を図ることが有効である。指導者の要請、乳幼児や協力者等の情報収集等ができ、交流が深まるとともに多岐にわたり相乗効果が期待できる。

必ず親が参加する乳幼児の定期健康診断や就学時健康診断等に組みこめると効果的である。そのためには、保育者の協力と託児室の設置が急務である。

開催するにあたっては、「親の学習」のネーミングを工夫し保護者等が参加しやすいような名称や条件・環境の整備し、参加者の評価が次につながることを。

余裕教室を子育てサロンとして開放できると乳幼児との交流を図ることができる。

おわりに 『参加者の表情が、「親の学習」プログラムの実施前と実施後では、全然違う。』『大変だったが、やってよかった。足を運ぶことが大切だ。』という研究委員の言葉が印象に残る。家庭の教育力を向上させるためには、今、できることをできる範囲で、一歩踏み出し、積み重ね、輪を広げていくことが大切である。

本研究報告書が、多くの学校等において、家庭教育支援に役立つものとなれば幸いである。

資料編（目次）

I アンケート

- 1 家庭教育に関するアンケート用紙 P 1
- 2 実施後のアンケート用紙 P 2

II プログラムに関する資料・ワーク等

- 1 家族って何だろう ? P 3
- 2 幼児を知ろう (パート1) P 5
- (パート2) P 8
- 3 子どもが元気になる生活リズムとは? P 12
- 4 こんなときどうする 健やかな育とのためにできること P 15

III 中学校学習指導要領 (抜粋)

- 1 技術・家庭科 P 16
- 2 総合的な学習 P 16
- 3 特別活動 P 17
- 4 道徳 P 17

アンケート1（乳幼児を持つ親用）

* 該当する回答の□内をチェック（レ）してください。（複数回答可）

- 1 家族で協力をして、子育てができていますか？ はい いいえ
- 2 あなたの子育てを支援してくれるところがありますか？ はい いいえ
- 3 自分自身の子育てについて、不安に感じることはありませんか？ はい いいえ
- 4 子育てについての情報源は**主に**どこですか？
 配偶者 実父母 義父母 祖父母 友達 近所の人
 子育て雑誌 テレビ 子育てサークルなど その他（ ）
- 5 子育てについての講演・講座などに参加したことがありますか？また、その理由をお書きください。
 はい いいえ

<理由>

- 6 5で「はい」と答えた人にお聞きします。それはどのようなものですか？
 市町村の講演・講座 PTAの講演・講座 公民館の講演・講座
 企業の講演・講座 その他（ ）
- 7 どのような内容の学習会や講演会なら参加してみたいと思いますか？
 親子のふれあいや関わり方が学べるような内容
 食育や子どもの健康などが学べるような内容
 子どもの生活習慣などについて学べるような内容
 子どもの発達や成長について学べるような内容
 子どものしつけや親の役割について学べるような内容
 子どもに社会性を身につける方法が学べるような内容
 子どもの体力づくりなどが学べるような内容
 子どもの人権や安全・安心の確保について学べるような内容
 その他（ ）
- 8 あなたが、家庭教育（家庭で子どもに身につけさせたいこと）で、**特に**大切にしたいことは何ですか？
 思いやりの心 生活習慣をつくる 自分のことが自分でできるようになる
 家の手伝い 食生活 健康な体づくり 人との関わり方
 ルールなどが守れる 我慢ができる その他（ ）

アンケート2（小・中学生保護者用）

* 該当する回答の□内をチェック（レ）してください。（複数回答可）

- 1 家庭教育（しつけなど）を意識したことがありますか？ はい いいえ
- 2 お子さんに**特に**身につけてほしいと思うものはどれですか？
 礼儀 学力 体力 感性 がんばる力
 思いやり 素直さ 命の大切さ 人との関わり方
 ルールやマナーを守る姿勢 時間の使い方 お金の使い方
 その他（ ）
- 3 お子さんと会話をしますか？
 よくする 時々する あまりしない 全くしない
- 4 お子さんとの会話で**よく**話題にすることは何ですか？
 勉強（成績） 学校での出来事 友達関係 異性との交流
 部活動 進路 家族 近所、親戚
 テレビ番組 音楽・スポーツ 趣味 旅行やイベント
 食事 情報機器（携帯電話やパソコン）の利用の仕方
 その他（ ）
- 5 お子さんのことで**特に**気になっていることはなんですか？
 勉強（成績） 学校での出来事 友達関係 異性との交流
 部活動 進路 家族 近所、親戚
 テレビ番組 音楽・スポーツ 趣味 旅行やイベント
 食事 情報機器（携帯電話やパソコン）の利用の仕方
 その他（ ）
- 6 これまでの子育てについて反省することができますか？ ある ない
- 7 6で「ある」と答えた人にお聞きします。それはどんなことですか？ **強く**思っていることを選んでください。
 親としての知識の少なさ 親としての心構え 夫婦間での話し合い
 年配者の助言を聞く姿勢 子育て仲間との輪 子どもに接する時間
 子どもを他の大人と関わらせる体験 その他（ ）
- 8 お子さんに対する家庭教育を考えたとき、どのような支援があるとよいと思いますか？

アンケート3 (中学生用)

* 該当する回答の□内をチェック (レ) してください。(複数回答可)

- 1 あなたは幼い子ども(0~6才)と遊んだ経験はありますか? □ある □ない
- 2 あなたは幼い子ども(0~6才)をかわいいと思いますか?
□すごく思う □思う □あまり思わない □思わない
- 3 家の手伝いをしていますか?
□よくする □時々する □あまりしない □全くしない
- 4 普段、親と会話をしますか?
□よくする □時々する □あまりしない □全くしない
- 5 親との会話でよく話題にすることは何ですか?
□勉強(成績) □学校での出来事 □友達関係 □異性との交流
□部活動 □進路 □家族 □近所、親戚
□テレビ番組 □音楽・スポーツ □趣味 □旅行やイベント
□食事 □情報機器(携帯電話やパソコン)の利用の仕方
□その他()
- 6 あなたは将来、親になりたいと思いますか? また、その理由もかいてください。
□思う □思わない

<理由>

- 7 あなたは親になる準備として、今どのようなことを特に学んでおきたいですか?
□幼児の遊び □乳幼児の体の発達 □乳幼児の心の発達 □子育ての仕方
□親としての関わり方 □しつけについて □社会のルールやマナー
□妊婦体験(体験ジャケットの着用など) □乳幼児とのふれあい体験
□その他()
- 8 生まれてから今までに親にしてもらったことで嬉しかったのはどのようなことですか?

学習を振り返って

(保護者)

学習日	月	日	会場名	性別	男	女
-----	---	---	-----	----	---	---

今日の学習について、お聞きします。あてはまるものを選び、理由や感想を書いてください。

- 1 あなたは、今日のような、グループでの話し合いなどを取り入れた学習について、どう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- ア よかった
イ まあまあよかった
ウ あまりよくなかった
エ よくなかった

理由

- 2 あなたは、今日のような学習にまた参加したいと思いますか。

- ア ぜひ参加したい イ 機会があれば参加したい
ウ あまり参加したくない エ 参加したくない

- 3 あなたは、今日の学習を通して子育てや子どもとの接し方など振り返ることができましたか。

- ア 振り返ることができた イ 振り返ることが少しできた
ウ 振り返ることはあまりできなかった エ 振り返ることはできなかった

- 4 あなたは、今日学んだことを今後の子育てや子どもとの接し方にどう生かしていきますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- ア 積極的に生かしていく
イ 生かしていくように努力する
ウ 生かしていくことはあまり考えていない
エ 生かしていくことは考えていない

- 5 今日の学習を終えて感じたことや考えたことを御自由にお書きください。

【御協力ありがとうございました】

2年〇組の保護者の皆様へ

来週の学活の時間に『「家族」について考える学習』を予定しています。お忙しいと存じますが、アンケートにご協力をお願いします。

※簡単にお答えいただいても結構です。 ※無記名でお願いいたします。

質問1・・・どんな「家族」をつくりたいとお考えですか？

(理想の家族とはどんな家族ですか？)

例) 仲の良い家族、あたたかい家族

質問2・・・家族との関わりの中で、「嬉しかったこと(思い出)」はどんなことですか？

例) 具合が悪かったときに娘がおかゆを作ってくれた

質問3・・・家族との関わりの中で、「いやだったこと(思い出)」はどんなことですか？

例) 娘に「〇〇!」と暴言を言われた

質問4・・・お子さんに「家族の一員としてこうしてほしい(求めること)」と思うことは何ですか？

例) うるさく言いたくないからすすんで勉強してほしい、うがい・手洗いをしてほしい

生徒の学活アンケート

☆簡単で良いから本音で答えてネ!
☆名前は書かなくていいよ!

質問1・・・どんな「家族」が理想ですか？

例) 仲の良い家族、あたたかい家族

質問2・・・家族との関わりの中で、「嬉しかったこと(思い出)」はどんなことですか？

例) 具合が悪かったときに〇〇がおかゆを作ってくれた

質問3・・・家族との関わりの中で、「いやだったこと(思い出)」はどんなことですか？

例) けんかしたこと

質問4・・・保護者に「家族の一員としてこうしてほしい(求めること)」と思うことは何ですか？

例) 優しい言葉で言ってほしい

「家族」について考えよう

子どもの声

・・・事前アンケートより・・・

Q「家族との関わりの中で嬉しかったこと(思い出)は何ですか？」

- テストで頑張ったらほめてくれた。 ○手伝いをしたらほめてくれた。
- 賞をとったときや検定に合格したときにほめてくれた。
- 看病してくれた (5人)
- 小さい頃骨折をしたときに家族がそばにいて声をかけてくれた。
- お母さんとは仲があまり良くないけれど祖母がいつも看病してくれる。
- 体調が悪いときお母さんがずっとそばにいてくれて弟が私の好きな食べ物を買ってきてくれた。(しかもおこづかいで)
- 母が仕事を休んで看病してくれた。 ○おかゆを作ってくれた。
- 学校を休んだとき優しくしてくれた。 ○熱を出したときあまり寝ずに看病してくれた。
- 具合が悪いとき「大丈夫？」と声をかけてくれる。
- 小6の卒業式前日に旅行に行ったこと。 ○ついこの間母とふたりで美術館に行ったこと。
- 欲しい物を買ってくれた。 ○どこかに連れて行ってくれる。
- 家族みんなで旅行に行ったこと。 ○試合の時に応援してくれる。
- いつも料理をしてくれる。 ○春休みに行ったお兄ちゃんの遠征。

Q「家族との関わりの中でイヤだったこと(思い出)は何ですか？」

- けんかをした。(9人) ●父とけんかして話をしなideた。
- 祖母と父がけんかをしたこと。 ●家族げんかをした。
- 親が夜けんかをしていたときのこと。 ●シカト。
- 「勉強しろ」としつこく言われた。 ●なし。(3人)
- 予定していた旅行が父の都合でだめになったこと。
- 他の人と比較する。 ●逆ギレしたり八つ当たりする。
- 飲み会などですぐ帰りが遅かったこと。 ●おこられたこと。
- 両親が一方的に話しかけてくること。 ●話しているのに話を聞いてくれなかったこと。

Q「保護者に家族の一員としてこうしてほしいこと(求めること)は何ですか？」

- ☆特にない。(3人)
- ☆もう少し自由にしてほしい。(放っておいてほしい)
- ☆けんかしないでほしい。 ☆けんかをしない家族でいたい。
- ☆すぐにおこらないでほしい。(2人) ☆優しい言葉で言ってほしい。(2人)
- ☆長生きしてほしい。 ☆もう少し自分のことをわかってほしい。
- ☆あまりからかわないでほしい。 ☆秘密をもたないで。
- ☆勉強についてしつこく言わないで。(2人)
- ☆優しいままの父・母でいてほしい。 ☆家族の悪口は言わないでほしい。
- ☆漢字を覚えてほしい。 ☆休日に家族全員で旅行など遊びに行きたい。
- ☆ガミガミ言わないでほしい。
- ☆自分で言ったことはちゃんとできてから言ってほしい。
- ☆勝手にキレないでほしい。 ☆メニューを自分好みにしないでほしい。
- ☆いつも健康でいてほしい。

「家族」について考えよう

保護者の声

・・・事前アンケートより・・・

Q「家族との関わりの中で嬉しかったこと(思い出)は何ですか？」

- 具合が悪かったときにホットプレートで料理を作ってくれて、台所用事を全てやってくれた。
- 母としては安心してゆっくりできました。
- 忙しいときにお手伝いしてくれた。(5人)
- 日曜日は夫が家の仕事をしてくれる。
- 体調が悪かったとき、他の家族が協力して家事をしてくれた。
- 体調が悪いときや忙しいときに、食事を作ってくれた・洗濯をしてくれた(4人)
- 弟(下の子)の面倒をよく見てくれたこと。(6人)
- 誕生日や記念日を祝ってくれた。
- 家族の誕生日に部屋を飾り付けて子供達で紙芝居や指人形などの出し物をして手紙を書いてくれた。
- 自分(子供自身)の誕生日に「お母さんありがとう」と言ってくれた。
- 誕生日に自分のお小遣いでプレゼントを買ってくれた。
- 家族そろって食事するとき。
- 作った料理を「おいしい」と言ってくれる(弁当もおいしいと言ってくれた)
- 普通に世間話をして笑ったりするときに幸せです。
- 健康に育っていること。
- 兄弟が仲良く助け合っているとき。
- 祖父母に優しい言葉をかけてくれたとき。
- 成長していく中で「こんな事もできるようになった」と感じたとき。
- 家族が入院したとき家事や看病など協力してくれた。そして他界したとき、何よりも優しい言葉をかけてくれて大事に思っていてくれた。

Q「家族との関わりの中でイヤだったこと(思い出)は何ですか？」

- 心配して声をかけているのにウザイ・うるさいと感じられた(言われた)とき。(3人)
- ウザがって話を聞こうとしない。
- 「他の親の子供に生まれたかった」と言われた。
- 友達と何かあったときに何も言わずにイライラしていて「ウザイ」と言われた。
- 親を拒絶された。
- なし(5人)
- 兄弟げんかめどなり合い。
- 家族を思っていたことに対して分かってもらえずに反発されること。
- 忙しいときに言わないと手伝ってくれない。
- 自分で出来ることも親に頼むこと。
- お互いに思いやりのない行動をしてしまうとき。
- 自分勝手なことをされたとき。
- 長男が一人暮らしを始めて家から出るとき寂しかった。
- 注意をされて泣いているとき。
- 体調を崩して入院したとき小学生の娘達や幼かった息子としばらく会うことが出来ずに寂しい 思いをさせてしまったこと。また寂しい思いをしたこと。
- 子供の前で夫婦げんかをしてしまい、子供に嫌な思いをさせてしまった。
- 反抗期で大きな声で意見言われると、自分の時は・・・と考え、間をおいて間違いを正して あげるようにしています。

Q「お子さんに家族の一員としてこうしてほしいこと

(求めること)は何ですか？」

- ☆明るく素直な心をいつまでも持っていてほしい。
- ☆食べ終えた食器をを片付ける・ゴミを捨てる。
- ☆計画・行動・実施ができるようになってほしい。
- ☆自分の使ったものは自分で片付けてほしい。
- ☆計画的に時間を有効に使ってほしい。
- やるべき事をやってほしい。(3人)
- ☆うるさく言ってもやりたくないときは不機嫌な感じだが、何事にも一生懸命取り組んでほしい。
- ☆洋服や机の上の整頓など身の回りに気を配れるようにしてほしい
- ・部屋をきれいに。(2人)
- ☆祖父母も含めて家族みんなを大切にしてほしい。
- ☆ともだちと仲良くできる人になってほしい。
- ☆困っている家族がいたら助け合ってほしい。
- ☆家族と協力して仲良く。
- ☆今自分がやらなくてはならないことを一生懸命やってほしい。
- ☆言われる前に行動をしてほしい。(3人)
- ☆「親しき仲にも礼儀あり」マナーを守ってほしい。
- ☆言われる前に手伝いを進んでやってほしい。(4人)
- ☆自分のことだけではなく兄弟の事を考えて行動してほしい。
- ☆好き嫌いをなくす。
- ☆悩みなどがあつたら言ってほしい。(3人)
- ☆夜遅くまで眠れないなら勉強してほしい。
- ☆家のことは周りの人も事も考えて責任をもって当番などのお手伝いをしてほしい。
- ☆うるさいくらいに笑っていいからそばにいてほしい。

「共に生きる」 2・3時間目	組	番	名前
-------------------	---	---	----

幼児期(0歳~6歳)について知ろう Part1

人間は生まれてから1年1年歳を重ねて成長します。成長の過程でそれぞれの時期に呼び名があります。この時間は【乳児期・幼児期】について分からないこと・知りたいことを班ごとに見つけましょう。この時期を振り返ると、覚えていることよりも覚えていないことが多くなっていると思います。色々な視点から乳児期・幼児期の不思議を探ってみましょう。

課題1 幼児期(乳児期を含む)について知っていることは何だろう。

<0歳~1歳>

<2歳>

<3歳~4歳>

<5歳~6歳>

課題2 幼児期について「わからないこと」「知りたいこと」は何だろう。

保護者への質問は (ア) 先生への質問は (イ) で分けよう。

質問内容	担当者

幼児期(0歳~6歳)について知ろう Part2

課題1 幼児についての質問の答えを知ろう。
「どうして?」と思ったら、その時に手を挙げて質問しよう。

質問	答え

課題2 年齢が変わると遊びはどう変化するだろう。
 それぞれの年齢で「折り紙」を折ったとしたら…を想定して考えてみよう。
 また、どうしてそう思ったのかも考えよう。

<0～1歳>

理由

<2歳>

理由

<3～4歳>

理由

<5～6歳>

理由

課題3 折り紙体験から、中学1年生のあなたは、どう感じましたか。

0～1歳

2歳

3～4歳

5～6歳



課題4 今日の授業を振り返り、あなたが幼児と遊ぶときに「心がけよう」と思うことはどんなことですか。

課題2の答え

<0～1歳>

<2歳>

<3～4歳>

<5～6歳>



メモ



大麻生中学校「総合的な学習の時間」予想される生徒からの質問事項

先生用

どんな遊びが好きですか。
一日どのくらいミルクを飲むか。
保育園の遊具で一番遊ばれるものは何か。
どんな遊びが人気か。
どんな行動をよくとるか。
好きなキャラクターは何か。
好きな動物は何か。
お手伝いはするか。
一人で洋服を着られるか。
どんな食べ物が好きか。
一人でトイレに行けるか。
好きな食べ物は何か。嫌いな食べ物は何か。
先生として一番嬉しいことは何か。一番大変なことは何か。
好きなスポーツは何か。
どんな物に興味があるか。
何歳くらいで三輪車に乗るか。
おやつにはどのような物を食べさせているか。
赤ちゃんが上を向いてボーッとしているときは、何を考えているのか。
赤ちゃんはどうして寝てばかりいるのか。
どうして赤ちゃんがすれ違ったとき、目で追ってくるのか。
赤ちゃんが泣くときは、何を求めているのか。
なぜ昼寝が必要なのか。なぜ昼寝をするのか。
3歳でどんなことができるようになるのか。
赤ちゃんはどんなことをすると喜ぶか。
幼児と遊ぶとき、どんなことに気が付いたらよいか。
時計を読める子がいるか。
最初に出来るようになる遊びは何か。

→

大麻生中学校「総合的な学習の時間」予想される生徒からの質問事項

保護者用

*無理をせず、答えられる範囲で教えてください。

ごはんを食べさせるときに気を付けていることはなんですか。
赤ちゃんが泣いているとき何を要求しているのですか。
遊ぶときに気を付けることはどんなことですか。
どんな遊具で遊ぶのが好きですか。
どんな歌を歌いますか。
泣いてしまったとき、どうやって泣きやませますか。
赤ちゃんの時、毎日の生活の中で気をつけていたことは何ですか。
言葉の変化では、1歳から6歳までにどんな変化がありましたか。
ハイハイから一人歩きまで、どういう変化がありましたか。
どんなもので遊びますか。
育てる上で一番大変なことは何ですか。
赤ちゃんが（お子さんが）一番好きな食べ物は何ですか。
0歳児を育てるのに大変だったことは何ですか。
1歳から6歳までの言葉の変化はどのようでしたか。
ハイハイから一人歩きまではどのように変化しましたか。
子どもを育てるにあたって必要な物、必要なことは何ですか。
赤ちゃんを育てるときに大変だったことは何ですか。
普段は何をして生活していますか。
どんな物、事に興味を持ちますか。
一番最初にしゃべった言葉は何ですか。
何でその名前を付けたのですか。（名前の由来は何ですか。）
生まれてからすぐに気が付いたことは何ですか。
何歳くらいから三輪車に乗れるようになりましたか。
お子さんはどんな食べ物が好きですか。
幼児期で一番苦勞したことは何ですか。
幼児期で一番感動したことは何ですか。
お手伝いをしてくれますか。
食べ物の好き嫌いは多いですか。
一人で洋服を着られますか。
何か習い事はしていますか。
子どもを育てる時にどんなことを意識していますか。（心がけていることは何か）
子どもの性格が分かるのはいつ頃ですか。どんな性格のお子さんですか。
自己主張し始めるのはいつごろですか。
一日に寝る時間は何時間くらいですか。
お子さんが得意なことはなんですか。
仲良くするにはどうしたらよいですか。
どんなことをすると喜ぶますか。
今までで一番困ったことはなんですか。

授業日・時間 6月25日(木) 3限(10:50~11:40)

集合時間・待機場所 10:40頃 2階 被服室

授業対象生徒 3年2組 34人

ねらい

近年の少子化により、幼児とかかわりをもったことのない中学生が増加している。幼児と親とかかわりを観察し、幼児の望ましい成長には心の発達に応じた適切な親のかかわりが必要であり、この根底に信頼関係や愛があることに気付かせることをねらいとする。また、幼児に興味関心を持たせ、今後の家庭科への意識付けを行いたい。さらに、幼児とかかわる機会や将来親になった時、適切な行動をとることができるよう学習させたい。

展開(50分)

学習内容	学習活動	指導上の留意点
◇本時の目標	・ねらいや学習の進め方について理解する。	・本時の学習についてポイントをしぼり、分かりやすく説明する。
◇親子準備	・体育館ステージ側に親子を迎える。	・緊張を和らげ、参加しやすい雰囲気を作れるよう配慮する。
◇対面	・お互いの簡単な自己紹介と挨拶をする。	
◇ふれあい①(全体)	・音楽や歌に合わせて体操や手遊びを行う。(アンパンマン体操、パンダウサギコアラ、大きなくりの木の下で)	・幼児と共に楽しく活動できるよう助言する。
◇ふれあい②(班別)	・6班(生活班)になり、親子を迎える。 ・ゲームをする。(バケツにイン!) ・バケツにソフトボールを入れ、どの班が一番入ったか競い合う。 ・班ごとに自己紹介を行う。(班長司会)	・事前に6組の親子をお願いをする。 ・中学生と幼児がふれあっている時は、会場を回り様子を観察する。 ・幼児だけに目がいつている場合には、親の子への対応や親子のかかわりに注目するよう働きかける。 ・子どもの発達に応じた対応が、親子のかかわりには必要であることをつかませるようにする。
◇質問タイム	・親子のかかわりを観察して気付いたことや子育てについて疑問に思ったことを質問する。 ・友達の質問や回答をよく聞き、気付いたことや感じたことをワークに記入する。	・記入する時は、今後幼児と接する時に参考になると感じたことを書くように話す。 ・ささいなことでも聞いてみるよう働きかける。
◇まとめ	・学習を通して考えたことや感想を書く。	・今日の幼児とのふれあい体験を通して、中学生に今までの成長を振り返らせ、家族の愛情や信頼関係にまつわる話をし、まとめとする。

お世話になります。宜しくお願いします。

親子とのふれあい交流会 計画表

組番氏名

交流日	○月○日(○) ○校時
場所	○○中体育館
服装	体操着、名札シール着用、爪をキレイに切っておく!
持ち物	各班の道具

★ 日程

※ すでに親子は体育館にいます。びっくりさせないように気をつけよう!

10:50 体育館へ 班ごとに整列(班長先頭・基本隊形) 親子と向かい合う。

10:52 対面(基本隊形に戻る。) 司会進行:学級代表()

* 代表(学級代表:)のあいさつの後、全員で「宜しくお願いします。」とあいさつをする。はじまりのあいさつです。大きな声で!!

* 親子グループ代表()さんのかけ声で「お願いします。」とあいさつを交わす。

10:55~11:10 ふれあい①(全体:アンパンマン体操、パンダウサギコアラ、大きな栗の木の下で)

11:10~11:15 ふれあい②(班別:バケツにイン!)

・バケツにソフトボールを入れ、どの班が一番入ったか競う。
・終了したら、頑張った幼児に首飾りをプレゼント!(副班長)
・楽しくゲームをしたところで、自己紹介。順番()番!

11:15~11:30 質問タイム(各班まるくなって、親に質問する。) この時、しっかり話を聞いて、ワークシートに記入する。

11:30 基本隊形に戻る。(素早く~~!!)

11:30~11:40 司会進行:学級代表()

* 代表(学級代表:)のあいさつの後、全員で「ありがとうございました。」とあいさつをする。感謝の気持ちを大きな声で伝えよう!!

* 親子グループ代表()さんのかけ声で「ありがとうございました。」とあいさつを交わす。

11:40 親子退場(音楽に合わせて、拍手で送り出す。)

資料(1) 幼児とのふれあい交流学習計画書

晩秋の候、皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、この度家庭科の「家族と家庭生活」の学習において、下記のねらいのもと幼児のふれあいをテーマに、体験学習を計画しております。御多忙のところ誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただきまして、本校生徒の訪問に御協力下さいますようお願い申し上げます。実習日は、手作りのおもちゃを持参して、保育園での活動をする予定です。保育園の先生方には御迷惑をおかけしますが、宜しくお願いいたします。

記

1. ねらい

- ① 幼児の生活を観察したり、直接幼児と遊んだりして、ふれあいの楽しさや喜びを味わうことができる。
- ② 対象児（パートナー）の個性や気持ちを大切にしたりして、幼児理解を深めることができる。
- ③ 生徒一人一人が、自分の幼児期を振り返り、幼児を自分の身近な存在と受け止め、幼児についての学習の重要性に気づくことや、生命の尊さを理解し、周りの人々に感謝の気持ちを持つことができる態度を養う。

2. 日時および訪問学級

- | | | | |
|----------------|------------|------|-------|
| ① 平成〇〇年〇月〇日（〇） | 9：10～10：20 | 3年〇組 | 〇〇幼稚園 |
| ② 平成〇〇年〇月〇日（〇） | 9：10～10：20 | 3年〇組 | 〇〇保育園 |
| ③ 平成〇〇年〇月〇日（〇） | 9：10～10：20 | 3年〇組 | 〇〇保育園 |

3. 訪問者 生徒 3年〇組（男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名）
 3年〇組（男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名）
 3年〇組（男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名）

引率 教諭 〇〇 〇〇

4. 日程および内容

- | | |
|-------------|------------------------|
| 8：50 | 中学校出発 |
| 9：10 | 保育園到着・準備 |
| 9：10～9：20 | はじめの会（全体会：園長先生の話など） |
| 9：20～10：00 | ふれあい交流（40分間） |
| 10：00～10：20 | お別れの会（お礼の言葉、歌のプレゼントなど） |
| 10：20～10：30 | 帰校 |
| 10：30～10：40 | まとめ |

資料(2) ワークシート1

ふれあい交流学習にあたって

組 番 氏 名

訪問先	
訪問時間	8：50 ～ 10：40（1・2校時）
服装	体操着、運動靴（天候に応じて指示あり）爪をキレイに切っておく！
持ち物	ひらがなの名札、各自のおもちゃ、ハンドタオル、上履き

日程

- 8：50 正門集合（各班のおもちゃは、朝のうちに車へ！）
 正門側先頭・学級委員、校舎側最後尾・家庭科係、男女各1列ずつ！
 （田中保育園のみ徒歩）
- 9：10 訪問先到着＆準備！
 指示された場所へ靴を整理。美しく！！
- 9：10 はじめの会（全体会・園長先生のお話など）
- 号令＆司会進行：家庭科係（ ）（ ）（ ）
- * これから交流会を始めます。
 - * はじめの言葉（学級委員女子： ）お願いします。 / ありがとうございます。学級委員のあいさつの後、全員で「宜しくお願いします。」とあいさつをする。はじまりのあいさつです。大きな声で！！
 - * 園長先生のお話、園長先生お願いします。 / ありがとうございます。
 - * 終わりの言葉（学級委員男子： ）お願いします。 / ありがとうございます。
 - * では、各班に分かれて準備をして下さい。
- 9：20～10：00 ふれあい交流学習
- 10：00 ふれあい交流学習終了！ はじめの形に整理する。
- * これからお別れの会を始めます。
 - * はじめの言葉（学級委員女子： ）お願いします。 / ありがとうございます。
 - * 感謝の気持ちを込めて、歌をプレゼントします。歌の隊形に並んで下さい。♪合唱曲披露♪
 - * 園長先生のお話、園長先生お願いします。 / ありがとうございます。
 - * 終わりの言葉（学級委員男子： ）お願いします。 / ありがとうございます。
 - * 最後に、全員でお礼のあいさつをして帰りたいと思います。 / ありがとうございます。ありがとうございましたと司会が言ったら、全員で言う。
- 10：20～10：30 帰校
- 10：30～10：40 学校到着！教室へ向かう。実習のまとめをする。



製作計画・記録

組 番 氏名

●作品名		●対象児 () 歳 (男 ・ 女)		
●グループ () 班 メンバー:		●所要時間 予定 () 時間 実際 () 時間		
●できあがり図		●材 料 (詳しく)	分 量	費 用
		●材料費 円		
月日	製 作 の 手 順	実習記録と反省 (何を行ったか内容を書こう！)		
/				
/				
/				
/				
●工夫点		●評 価	～セルフチェック～ ○△×を記入! ①安全で丈夫にできたか? () ②幼児の発達に合っているか? () ③幼児の発達に役立つものか? () ④幼児が好む工夫ができたか? () ⑤作業の進め方は良かったか? ()	
●感 想			
			
			
			

注意すること10箇条！！

- ① () …事故やけがのないよう、交通安全を守り、訪問先に行こう。
- ② () …先生方の気持ちを理解し、迷惑になるような行動は慎みましょう。
- ③ () …訪問先にある物を乱暴に扱ったり、壊したりしないこと。
もし、壊してしまった場合は、すぐに連絡しましょう。
- ④ () …幼児お兄さん、お姉さんが大好きです。
まねをされても恥ずかしくないような言葉遣い、動作、身なりを心がけましょう。
- ⑤ () …悪い言葉で話しかけられても、正しい言葉遣いで、優しく返事をしてあげましょう。
- ⑥ () …幼児の体は、まだ完全な体になっていません。
無理強いをしたり、いきなり抱いたり、引き寄せたり、背負ったりしないようにしましょう。
- ⑦ () …幼児の目の高さまでしゃがんで、目線を合わせて話をしましょう。
- ⑧ () …幼児の生活や言葉、遊び方、動き、周囲との関わり方などを観察しましょう。
- ⑨ () …ひとりぼっちの子がいたら、話しかけて仲間に入れてあげましょう。
- ⑩ () …〇〇中学校の生徒として、恥ずかしくないような態度で、しっかりと取り組みましょう！

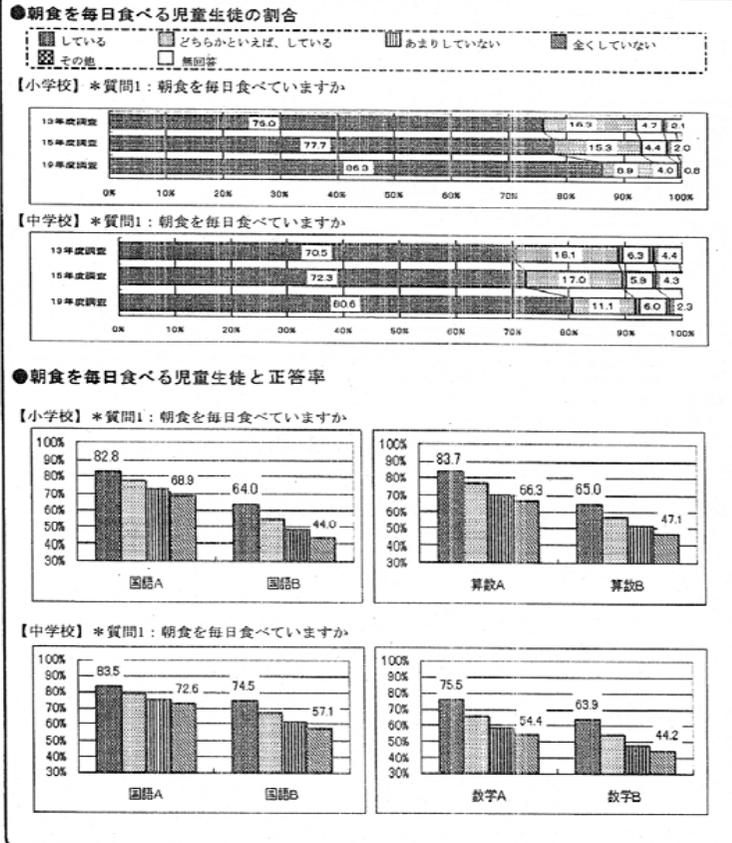
幼児との遊びの中から観察してみよう！

- ・ だっこをすると重さがわかります。
- ・ おしゃべりをすると、言葉数や幼児の生活の興味関心などが分かります。
- ・ 靴を履かせたり、手をつないだりすると感触が分かります。
- ・ 一緒に体を使って遊ぶと、運動技術が分かります。



1 はじめに

2 全国学力・学習状況調査から



◎話し合ってみましょう。

課題1 ()

資料1

◎お腹がすいた時どうなりますか？(複数回答可)

1	早く給食にならないかなと思う	82人
2	授業中でもボーッとする	38人
2	いつもと変わらない	38人
4	話が頭に入らない	33人
5	良い姿勢ができなくなる	24人
6	イライラする	23人
7	食事のことを考えるようになる	22人

(以下、略)

(小学校5年生 136人の回答結果)

(熊谷の子どもたちを朝食で元気にする会「朝ごはんをたべよう!!」から)

課題2 朝食づくりの私のアイデアを交換しましょう。

資料②

◎記憶力に効くグルコースは朝食から

朝食を食べると、集中力、学習能力が高まり、記憶力が日中に最高になります。これは、脳にとって唯一のエネルギー源であるグルコース（血糖）が補給される他に、副産物としてベータ・エンドルフィンという脳内に爽快な気分を作り出す物質が分泌されるからです。

記憶力を司るのは、大脳の奥にある記憶中枢として知られる「海馬」という部分です。これは、形がタツノオトシゴに似ているためその名前がつけました。米国のバージニア大学のE・C・マックネイ博士の調査では、グルコースが「海馬」に必要な栄養を供給していることが分かりました。彼は、ネズミを2種類のグループに分け、グルコースを供給したネズミとそうしなかったネズミに分けて、両者の記憶力を比較したのです。ネズミを迷路に入れて、逃げ道を考えさせ、記憶力をテストしながら、海馬のグルコースの消費量を5分おきに調べてみたのです。脳の活動に伴い、グルコースが減っていき、それに伴い記憶力が落ちていきました。ところがグルコースを供給し続けたネズミの方は、好成績を収めました。

◎爽快な気分を作るベータ・エンドルフィンもグルコースから

グルコースは脳の中で爽快な気分を作り出すベータ・エンドルフィンという物質を分泌する働きもあります。この物質は、定期的に朝食を摂るときに出やすく、間食をしすぎると出にくくなります。夜の睡眠時間という“断食”を経て補給されることが必要なのです。規則正しく朝食を摂ることが必要な理由は、ここからも説明できます。

（「朝ごはん実行委員会ニュース ニュースレターNO.4」から）

（「親の学習」プログラム集の手引から）

食べないよりは、少しでも

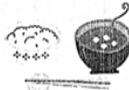
かんたん朝食メニュー…



メニュー-1 どうしても無理という人へ
飲み物だけでもおすすです。
牛乳、スープ、野菜ジュースなどはいかがですか。



メニュー-2 ステップ1にプラスして
チーズ、ヨーグルト、バナナ、トマト、食パン、ちょっと手を加えおにぎり、みそ汁などと組み合わせるみてはいかがですか。

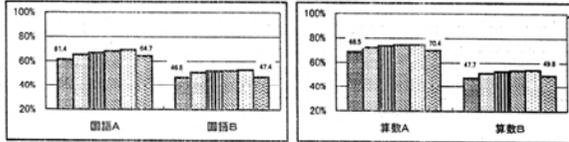


メニュー-3 パーソナルアップして
ごはん、みそ汁、たまご焼き、焼き魚
ごはん、みそ汁は、前日少し多めに作っておいても…

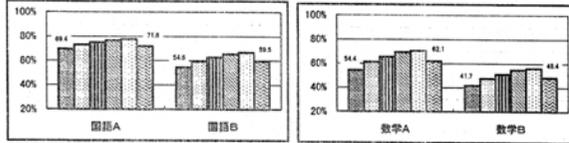
◎テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間が短い児童生徒、テレビゲームをする時間が短い児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない ■ 全くしない

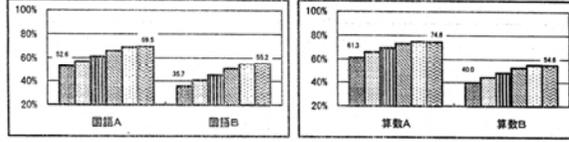
【小学校】*質問12：普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか



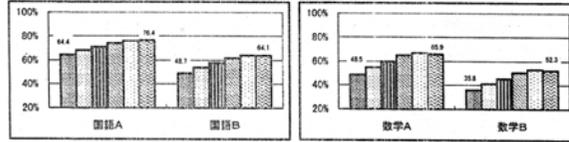
【中学校】*質問12：普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか



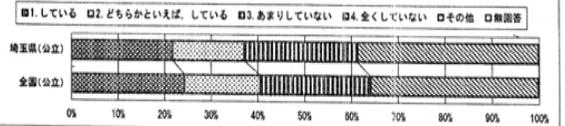
【小学校】*質問13：普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか



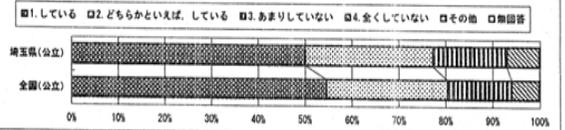
【中学校】*質問13：普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか



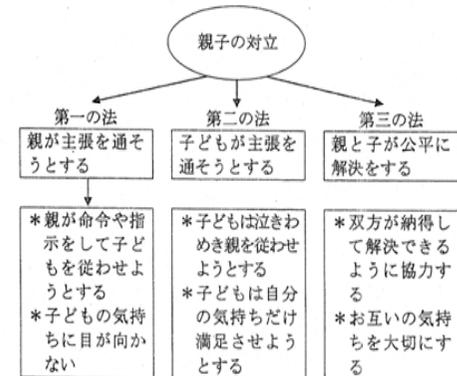
質問番号	質問事項									
(20)	家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
埼玉県(公立)	21.7	15.4	24.2	38.6					0.0	0.1
全国(公立)	24.3	16.3	23.5	35.8					0.0	0.1



質問番号	質問事項									
(21)	家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
埼玉県(公立)	50.1	27.3	15.7	6.9					0.0	0.1
全国(公立)	54.5	25.9	13.6	5.9					0.0	0.1



3 親子の対立



保護者様

平成21年9月11日

川本北小学校 校長 橋本 隆
 同 PTA 会長 橋本 隆
 同 保健 委員 橋本 隆
 川本中学 校長 橋本 隆
 同 教 員 橋本 隆

小中合同家庭
 教育学級の開
 催文書

「食育講演会」及び「親の学習」参加者募集のお知らせ

初秋の候、皆様には、ご健勝にてますますご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より、学校教育活動及びPTA活動に、ご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、下記の通り、小中合同事業を計画しました。川本北小学校では、「食育講演会」、川本中学校では「第1回家庭教育学級」として開催いたします。会場の都合上、定員は40名です。早めにお申し込み下さい。

記

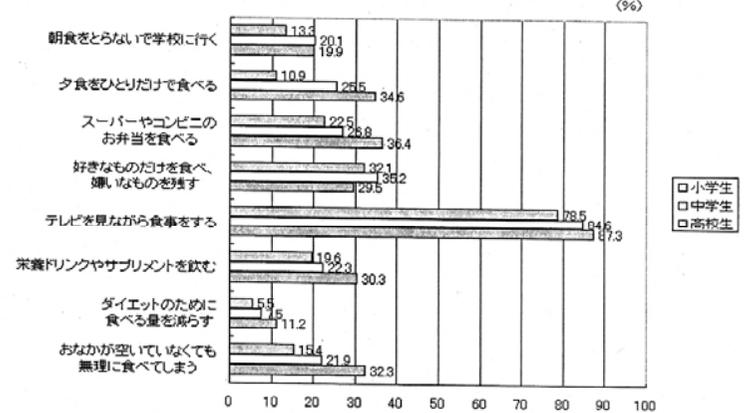
- 1 日 時 平成21年10月14日(水) 午後1時～午後4時
 受付12時30分～
 ※ 午後1時には開始しますので、ご協力お願いいたします。
- 2 場 所 川本北小学校 多目的ホール
- 3 内 容 第1部
 食育講演会「食卓の向こう側」
 講師 西日本新聞社「食・くらし」取材班 記者 渡邊美穂氏
 第2部
 親の学習 「子どもが元気になる生活リズムとは？」
 講師 親の学習ファシリテーター 新井美智子氏
 埼玉県教育局家庭地域連携課 新井 研吾氏
- 4 持ち物 筆記用具 スリッパ
- 5 申し込み 平成21年9月30日(水)まで
 下記の申込書にご記入の上、児童生徒を通して担任の先生にご提出下さい。
 ----- キリトリ -----
 食育講演会・第1回家庭教育学級 に参加します。

年 組 児童生徒氏名

参加者氏名

資料1

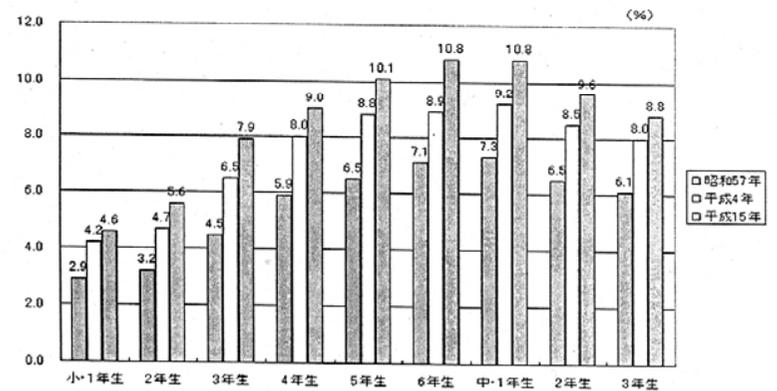
毎日の食事のなかで、次のようなことほどぐくりますか
(「よくある」+「ときどきある」の合計)



Benesse 教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」より(2004年実施)

資料2

肥満傾向児の割合



文部科学省より：学校保健統計調査「子どもの食生活をとりくく情況」より

タイトル【健やかな育ちのためにできること】…脳科学の視点で考える

親の学習手引き…3—②(生活リズム)

プログラム (1時間30分)

<導入> (20分)

- ・ 自己紹介、プログラムの説明
- ・ 自己紹介ゲーム「私は何人兄妹です」…兄妹の人数よっての良かった点やいやだった点を確認する。
- ・ グループ分け … 子どもの生年月日順に5名ずつ3グループに分ける。

<展開> (30分)

- ・ O×クイズを解いた後、答え合わせ。生活リズムと脳の働きの関係について説明する。
- ・ 家族の起きる時間・朝ごはんの時間・夕ごはんの時間・夜寝る時間の書き込み、うまくいっているところ・改善したいところを書き込み。
- ・ グループごとに書き込んだ事柄について話し合い、グループごとに発表。

(30分)

- ・ 兄妹の多い家庭が殆どだったので、兄妹の影響と生活リズムとの関係について話し合い、グループごとに発表。

<まとめ> (10分)

- ・ 学習のまとめ・アンケート記入

脳のヒ・ミ・ツ O×クイズ *気軽に考えてね*

- 問1 生まれたばかりの赤ちゃんの脳はまだ動いていない
- 問2 幼児期の睡眠は10時間以上必要だ
- 問3 脳の大きさと能力は比例しない
(大きい脳でも優秀とは限らない)
- 問4 海馬(知識工場)がはたらくのは夜だ
- 問5 牛乳と母乳はほとんど成分が同じなので
粉ミルクの原料になる
- 問6 脳が成長しているのは夜である
- 問7 かけ足が速いとか声が良いという能力は遺伝する
- 問8 子どもの脳が完成する(大脳の表皮・新皮質まで
機能する)年齢は? 注:年齢を書いてね 歳
- 問9 脳に男女の差はない
- 問10 現在、10%の小学生がうつ症状である

技術・家庭科

家庭分野

1 目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる

2 内容

A 家族・家庭と子どもの成長

- (1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。
 - ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかわりについて考えること。
- (2) 家庭と家族関係について、次の事項を指導する。
 - ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかわりについて理解すること。
 - イ これからの自分と家族とのかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。
- (3) 幼児の生活と家族について、次の事項を指導する。
 - ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。
 - イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること。
 - ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かわり方を工夫できること。
 - エ 家族又は幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること。

BCD 省略

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A家族・家庭と子どもの成長」については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア (1)、(2)及び(3)については、相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意すること。
 - イ (2)のアについては、高齢者などの地域の人々とのかわりについても触れるよう留意すること。
 - ウ (3)のアについては、幼児期における周囲との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性についても扱うこと。(3)のウについては、幼稚園や保育所等の幼児との触れ合いができるよう留意すること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成にあたっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) ～・授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導計画に基づき、いずれかの分野に偏ることなく～。
その際、家庭分野の内容の「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、これら3事項のうち1又は2事項を選択して履修させること。
 - (2)～省略～並びに家庭分野の内容「A家族・家庭と子どもの成長」から「D身近な消費生活と環境」の各項目に該当する授業時数及び履修学年については、地域、学校及び生徒の実態等に応じて、各学校において適切に行うこと。
- ##### 2 各分野の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な学習活動を充実すること。
 - (2) 生徒が学習した知識及び技術を生活に活用できるよう、問題解決的な学習を充実するとともに、家庭や地域社会との連携を図るようにすること。
- ##### 3 実習の指導にあたっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

- 4 各分野の指導については、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

総合的な学習の時間

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

第2 各学校において定める目標及び内容

1 目標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

2 内容

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成にあたっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 全体計画及び年間指導計画の作成にあたっては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示すこと。その際、小学校における総合的な学習の時間の取組を踏まえること。
- (2) 地域や学校、生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習、生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。
- (3) 省略
- (4) 省略
- (5) 学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や自己の将来に関する学習活動などを行うこと。
- (6) 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。
- (7) 各教科、道徳及び特別活動の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。
- (8) 省略
- (9) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、総合的な学習の時間の特徴に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 第2の各学校において定める目標及び内容に基づき、生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。
- (2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語のより分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
- (3) 自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- (4) 体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探究活動の過程で適切に位置付けること。
- (5) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫すること。
- (6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。
- (7) 職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組みを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

特別活動

第1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

1 目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

2 内容

学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上、生徒が当面する諸問題への対応に資する活動を行うこと。

(1) 学級や学校の生活づくり

(2) 適応と成長及び健康安全

ア 思春期の不安や悩みとその解決

イ 自己及び他者の個性の理解と尊重

ウ 社会の一員としての自覚と責任

エ 男女相互の理解と協力

オ 望ましい人間関係の確立

カ ボランティア活動の意義の理解と参加

キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

ク 性的な発達への適応

ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

(3) 学業と進路

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達段階などを考慮して、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用など工夫すること。

(2) 省略

(3) 学校生活への適応～省略～特記、中学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活できる工夫すること。

(4) 省略

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 〔学級活動〕及び〔生徒会活動〕の指導については、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにするとともに、内容相互の関連を図るよう工夫すること。また、よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。

(2) 〔学級活動〕については、学校、生徒の実態及び第3章道徳の第3の1の(3)に示す道徳教育の重点などを踏まえ、各学年において取り上げる指導内容の重点化を図るとともに、必要に応じて、内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができること。また、個々の生徒についての理解を深め、生徒の信頼関係を基礎に指導を行うとともに、生徒指導との関連を図るようにすること。

(3) 省略

3 省略

道徳

第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、総合し、道徳的価値及びその基ついた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

第2 内容

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする。

1 主として自分自身に関すること。(1)～(5) 省略

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

(1) 省略

(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。

(3) 省略

(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方がることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。

(6) 省略

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。(1)～(3)省略

4 主として集団や社会のかかわりに関すること

(1) 省略

(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。

(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。

(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。

(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

(7)～(10) 省略

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するため、次に示すところにより、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする。

(1) 道徳教育の全体計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、生徒、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示す必要があること。

(2) 道徳の時間の年間指導計画の作成に当たっては、道徳の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、計画的、発展的に授業がなされるよう工夫すること。その際、第2に示す各内容項目の指導の充実を図る中で、生徒や学校の実態に応じ、3年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導を行うよう工夫すること。ただし、第2に示す内容項目は、いずれの学年においてもすべて取り上げること。

(3) 省略

2, 3, 4, 5 省略

<調査研究指導助言者>

早稲田大学人間科学学術院 教授 嶋田 洋徳

<調査研究協力委員>

熊谷市立大麻生中学校 教諭 板橋 充
〃 P T A会長 馬場 俊久
深谷市立川本中学校 教諭 永沼 友子
〃 P T A役員 松村 佐和子
所沢市立小手指中学校 P T A役員 鳥居 八千代
〃 大谷 こずえ
NPO 法人子育てサポーター・チャオ 理事 近澤 恵美子
三郷市立北公民館 主任社会教育主事 室伏 延人
市町村支援部家庭地域連携課 主任社会教育主事 新井 研吾

20年度

熊谷市立大麻生中学校 P T A会長 鶴田 裕司
所沢市立小手指中学校 教諭 石川 文典
NPO 法人子育てサポーター・チャオ 理事 雲雀 信子
市町村支援部生涯学習文化財課 主幹 西木 優道

<担当職員>

県立総合教育センター 生涯学習担当 主任社会教育主事 橋本 孝司
〃 柳下 高明(20年度)
〃 矢島 久 (20年度)
社会教育主事 相澤 輝久
〃 古川 博志

研究報告書 第335号

『「親の学習」プログラムによる家庭教育支援の進め方の調査研究』

平成22年3月発行 (平成21年度)

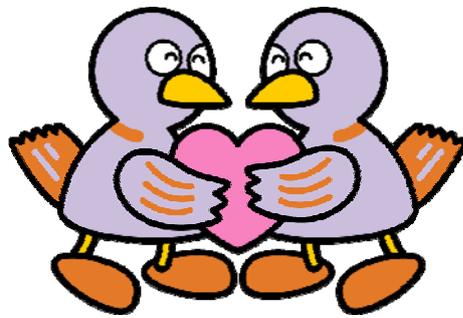
編集・発行：埼玉県立総合教育センター 生涯学習担当

〒336-8555 埼玉県さいたま市緑区三室1305-1

TEL 048-874-1221 (代表)

048-712-5656 (生涯学習担当直通)

FAX 048-810-1013



埼玉県のマスコット コバトン